

福島沿岸 海岸保全基本計画

～ともに考え、ともにつくり

未来へ残そう“うつくしまの海岸”～



福島県
平成29年3月

福島沿岸海岸保全基本計画

目 次

第1 海岸の保全に関する事項

1 海岸の現況及び保全の方向に関する事項	
(1) 海岸の概要	-----1
(2) 海岸災害と防災	-----6
2 沿岸の基本理念	-----9
3 海岸の防護に関する事項	
(1) 防護の施策	-----10
4 海岸環境の整備及び保全に関する事項	
(1) 海岸環境の整備及び保全のための施策	-----13
(2) 海岸保全施設の維持又は修繕に関する方針	-----16
5 海岸における公衆の適正な利用に関する事項	
(1) 海岸利用促進のための施策	-----17
6 海岸における愛護啓発に関する事項	
(1) 海岸の愛護啓発のための施策	-----20

第2 海岸保全施設の整備に関する事項

1 海岸保全施設を整備しようとする区域	
(1) ゾーン及びブロック区分	-----22
(2) 施設整備にあたっての方針	-----22
(3) 海岸保全施設整備の考え方	-----23
2 海岸保全施設の種類、規模及び配置等	
(1) 海岸保全施設の特徴	-----26
(2) 計画事項	-----30
(3) 整備計画	-----31

第3 その他

1 情報発信と地域住民の参画	-----72
2 計画の見直し	-----72

まえがき

(これまでの経緯)

福島県では、改正海岸法により、防護・環境・利用の調和がとれた総合的な海岸の保全を推進するため、国が定めた海岸保全基本方針に基づき「福島沿岸の海岸保全基本計画」を平成 16 年 11 月に策定した。

本計画は、福島沿岸（福島県相馬市茶屋ヶ岬～茨城県境）を対象として、長期的な海岸保全の基本的方向と施策を示すものであり、同計画に沿って、高潮・波浪等の災害に対する安全度の向上や海岸の適正な利活用の推進、警戒避難体制の整備などを進めてきた。

なお、本計画の策定に際しては、関連計画との整合性を図るとともに、学識経験者及び住民代表からなる沿岸懇談会、地域住民、関係市町村長、関係海岸管理者等の意見を十分に反映させた。

(福島沿岸海岸保全基本計画の第 1 回変更)

その後、平成 23 年 3 月 11 日に東北地方太平洋沖地震が発生し、過去最大クラスの地震動やそれに伴う津波、地殻変動により本県の沿岸全域において、海岸堤防の倒壊等海岸保全施設が壊滅的な被害を受け、その背後の人命・資産に甚大な被害をもたらした。

このため、本県では、被災地の一日も早い復興を実現するため、平成 23 年 10 月までに応急対策を実施し、被害の拡大防止を図るとともに、平成 23 年 7 月に有識者から構成される「福島県海岸における津波対策等検討会」を設置し、同年 10 月には同検討会の提言を受け、比較的発生頻度の高い一定程度の津波及び高潮・波浪に対応した計画堤防高や構造等の基本的事項を決定した。

この基本的事項に基づき、一部の地区海岸における海岸堤防等の本復旧工事に先行的に着手するとともに、今後本県の沿岸全域において本復旧工事が本格化することや平成 23 年東日本大震災前後の海岸保全を取り巻く状況変化を踏まえ、今般本計画を変更することとした。

本計画変更にあつては、海岸保全施設の整備に関する事項を見直すとともに、改めて、海岸保全の基本的方向として海岸環境の整備及び保全に関する事項や海岸における公衆の適正な利用に関する事項についても、現時点で可能な範囲で見直すものである。

なお、東京電力福島第 1 原子力発電所の事故に伴い、立ち入りが制限されてい

る警戒区域等については、計画堤防高の見直しのみとした。

また、沖合施設の計画等については、今後の復旧・復興の進捗状況や、海岸地
形の変動状況等を踏まえ、改めて有識者や住民の方々の意見を聴きながら、必要
に応じ見直していくこととする。

（福島沿岸海岸保全基本計画の第2回変更）

福島沿岸海岸保全基本計画第1回変更後の平成26年6月に、海岸法の改正によ
り海岸管理者は海岸保全施設を良好な状態に保つよう維持・修繕すべきことが明
確化されたことを踏まえ、「海岸保全施設の維持又は修繕の方法」について、記
述の追加をするものである。

（福島沿岸海岸保全基本計画の第3回変更）

福島沿岸海岸保全基本計画第2回変更後に整備対象施設が追加になったことか
ら、記述の追加をするものである。

（変更履歴）

平成16年	11月	福島沿岸	海岸保全基本計画	策定
平成25年	4月	福島沿岸	海岸保全基本計画	第1回目変更
平成28年	3月	福島沿岸	海岸保全基本計画	第2回目変更
平成29年	3月	福島沿岸	海岸保全基本計画	第3回目変更

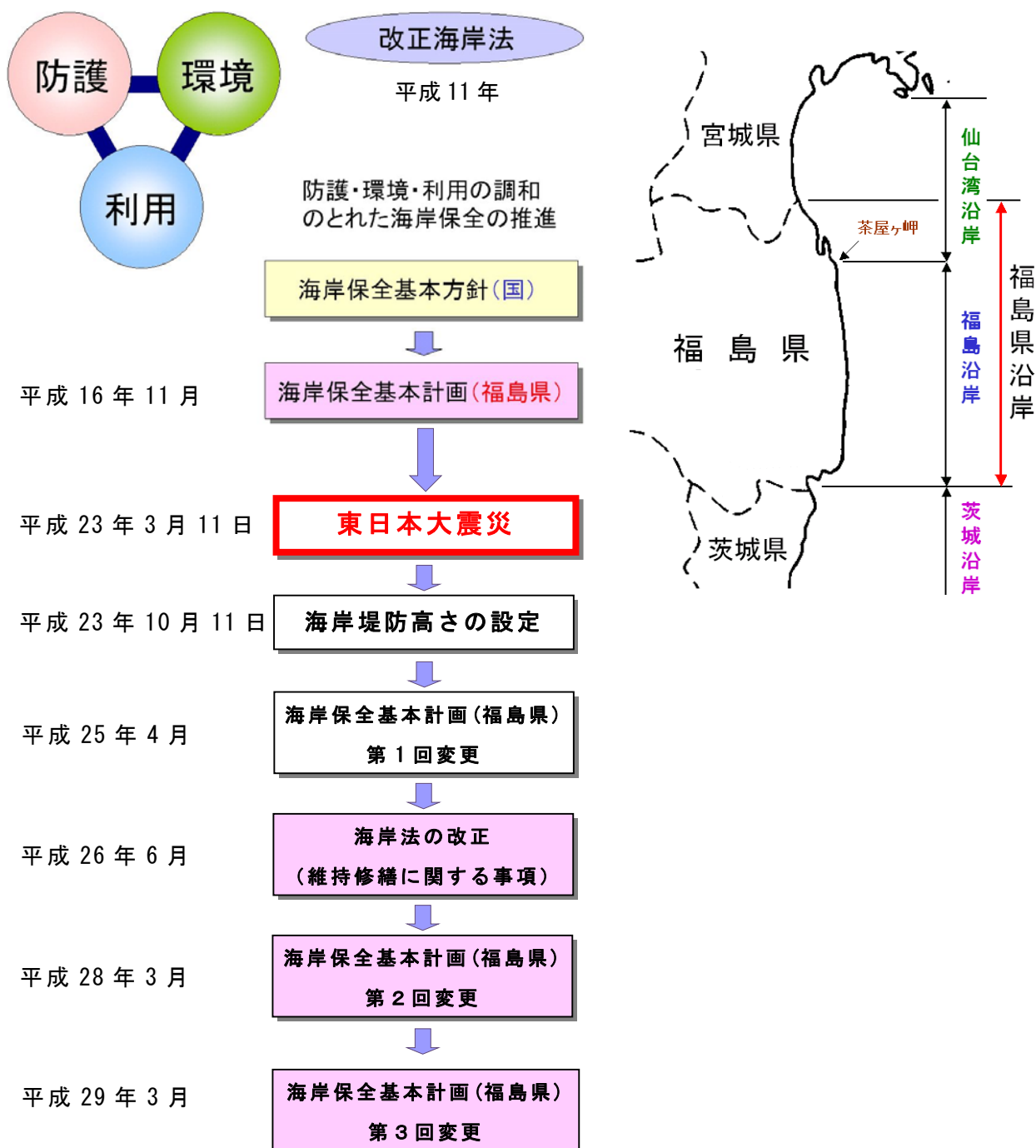


図 海岸保全基本計画策定および変更の流れ

第 1 海岸の保全に関する事項

1 海岸の現況及び保全の方向に関する事項

(1) 海岸の概要

ア 福島沿岸の概況

福島沿岸は、太平洋に面した福島県相馬市からいわき市に至る延長約 139 km の海岸である。

海岸線は全般的に直線状の単調な形状であり、北部の相馬地方と南部のいわき地方は比較的長い砂浜が広がっているが、中部の双葉地方では海岸線まで丘陵がせまり、高さ 20～30m の崖となっている。

この沿岸に流れ込む主な河川は、二級河川の真野川、新田川、請戸川、木戸川、夏井川、鮫川等があり、いずれも阿武隈山地に水源を発する急流河川で海岸における主要な土砂供給源となっている。^{*1}

福島沿岸を形づくる地形・地質は、海岸部付近は阿武隈山地の東縁に沿って段丘状に丘陵地が発達しており、北部から中部にかけての丘陵地は新第三紀層、南部は白亜紀層と新第三紀層を基盤としている。^{*2}

海底の地形は、北部から中部にかけては遠浅であるが起伏が大きく、南部では勾配が急で単調である。また、土質は主に砂であり水深 40m より浅いところには岩盤が多く点在している。^{*3}

気候は、夏は涼しく、冬は比較的温暖な太平洋気候で、降雪日は数えるほどしかない。風向は年間を通じて陸から海に向かう北西風が最も多いが、夏季は海から陸に向かう南西の風が多く、冬季には北西の風が多いという季節的な変化が見られる。^{*4}

一方、海流は、福島県沖で寒流（親潮）と暖流（黒潮）が交わっている。^{*5} また、福島沿岸における漂砂は北向きが多く、一部の海岸ではポケットビーチ内での土砂の移動が見られる。^{*1}

海岸の地形変化や災害に大きな影響を及ぼす波浪は、福島沿岸が直接外洋に面しているため、波高が高く周期の長い波が多いのが特徴で、波向としては、冬季は北北東から東にかけて、夏季は南東方向、春季・秋季では東から南東方向の波が多い。^{*6}

^{*1} 平成 9 年度福島沿岸海岸侵食調査（福島県：1997）

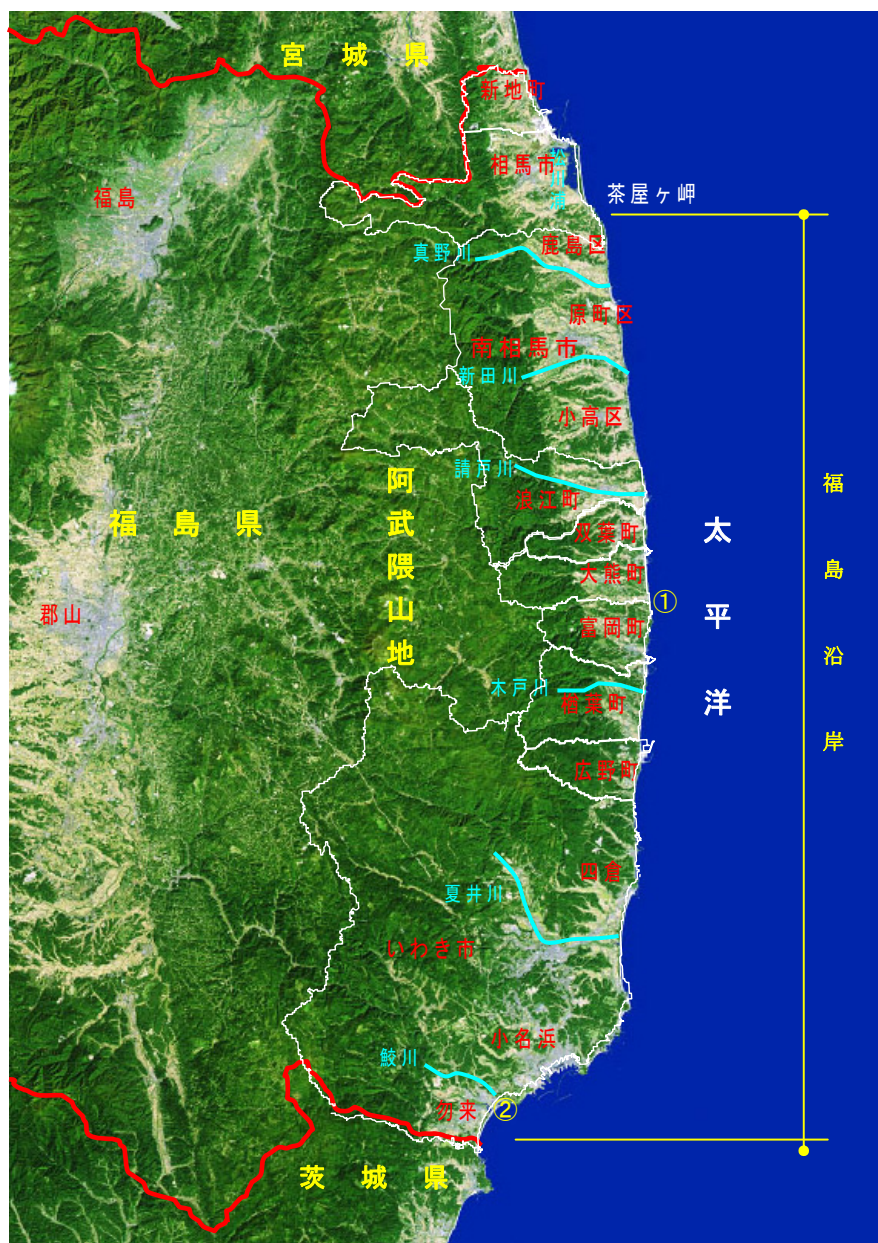
^{*2} 福島県の地質図、福島県地学のガイド（鈴木敬治：1992）

^{*3} 福島県海域環境マップ（福島県：1994）

^{*4} アメダス気象データ（気象庁：2001）

^{*5} 本州南・東岸水路誌（海上保安庁：1986）

^{*6} 昭和 62 年福島県海岸特性調査（福島県：1987）



出典：ランドサット画像を編集



①小良ヶ浜海岸（大熊町）



②須賀海岸（いわき市）

写真-1 福島沿岸の地形・地質

イ 自然環境

福島沿岸は、海岸線の約半分が県立自然公園（磐城海岸、勿来）、自然環境保全地域（熊川海岸）に指定^{*7}されているように優れた自然環境が多く残っている。また、いわき市の薄磯海岸が、日本の渚・百選^{*8}として認定されている。

海岸線近くにはクロマツ等の海岸林やハマヒルガオ、ハマボウフウ、ハマエンドウといった砂浜に生育する植物が見られる。



写真-2 薄磯海岸（いわき市）

また、植物の植生区分では暖温帯の北端にあたることから、スダジイ等の当地域を北限とする植物も多い。^{*9}

このような植物の分布は、それ自体が主要な海岸環境の要素となっているだけでなく、そこを生息の場とする生物にとっても欠かせない環境を提供しているとともに、飛砂やしぶきを防止する効果がある。

これらの地域には、ユリカモメ、ウミウ等の水鳥が多く見られ、海底の岩場にはカニ類、サザエ、アワビ等が生息し、砂浜ではホッキガイ、ヌノメアサリ等の二枚貝類の他、エビ類、ゴカイ類が生息している。主要な魚類としてはカレイ、ヒラメ等が多く、沿岸に流入する河川にはサケの遡上が見られる。また、貴重な動植物としては、県指定の天然記念物であるマルバシャリンバイ（南相馬市南海老）やコシダ・ウラジロ自生地（いわき市小浜）、国指定の天然記念物であるウミウがいわき市照島に生息している。^{*9}



写真-3 マルバシャリンバイ群落
南海老海岸（南相馬市）

また、近年、夏井川河口付近では絶滅の危機に瀕しているコアジサシの営巣やいわき市の砂浜海岸（四倉・勿来）でアカウミガメの産卵や孵化が確認されている。海域で見られる生物については、アラメやガラモ類等の褐藻類と呼ばれる海藻を中心に、多くの藻場が点在しており^{*9}、魚類の産卵や稚魚育成のための貴重な場所となっている。

なお、東北地方太平洋沖地震に伴う津波による海岸地形の変化等に伴い、野生動植物の生息生育が変化したことが一部報告されているが、現時点で不明確な点が多い。

^{*7} 福島県自然環境情報（福島県：2002）

^{*8} 日本の渚 100 選（日本の渚中央委員会：1996）

^{*9} 第 2,3 回自然環境保全基礎調査（環境庁：1979,1989）、福島県植物誌（福島県植物誌編纂委員会：1987）、レッドデータブックふくしまⅠⅡ（福島県：2002,2003）、ふるさとの鳥をたずねる（福島県野鳥の会：1979）

ウ 社会環境

福島沿岸の地域には、県内人口（約203万人）の約24％に当たる約48万人（平成22年国勢調査）が住んでおり^{*10}、重要港湾である小名浜港の臨海地域を中心に福島県の産業の拠点となっている。近年は高速交通網の整備に伴って、エレクトロニクス関連企業の立地がめざましい。また、発電所が多く立地し、全国でも有数の電力供給基地となっている。



写真-4 小名浜港（いわき市）

一方、福島県の沖合は、寒流（親潮）と暖流（黒潮）が交じわる恵まれた漁場環境を有していることから、古くから漁業が盛んである。また、北部や中部は沿岸漁業の基地として、南部は小名浜港を中心とした沖合・遠洋漁業の基地として本県経済の一翼を担ってきた。

これらの産業と首都圏やその他地域とを結びつける交通網は、海岸線にほぼ並行して、常磐自動車道、国道6号、JR常磐線等があり、交通網の整備の進展が本地域の産業や観光の活性化を促進し、沿岸の生産活動の拡大、発展をもたらしてきた。

海岸利用も盛んで、海水浴場、野外施設、スポーツ施設、体験学習施設等の多くの施設のほか、サーフィン、釣り、プレジャーボート等の海洋性レクリエーションの諸活動において県内外を問わず多くの人々が利用している。砂浜海岸では、地元住民の利用頻度も高く散策や風景観賞等、余暇や憩いの場として日常的に利用されている。さらに、年間を通じて海岸を利用した催し物も多く、市町村や地元の団体が中心となって、花火大会、サーフィン大会、凧揚げ大会、地引網大会等が行われている他、海水浴シーズンには学校・ボランティア団体・地域住民等により、各海岸において海岸清掃が行われている。

また、北泉・大磯海岸ではC.C.Z（コースタル・コミュニティ・ゾーン）整備事業により、海岸事業と関連事業の公園・下水道など一体となって海岸整備を図り、海水浴シーズンはもとより年間を通じて多くの人々が利用している。

しかしながら、一方ではこうした沿岸域の生産活動や利用の拡大に伴って海域や砂浜では、生活排水や投棄ゴミ・漂着ゴミ、あるいは船舶の座礁の際に発生する油の流出等による負荷が増加している。特に河川を通じての負荷については、沿岸域のみならず流域全体に係わるものとなっている。

さらには、東日本大震災による福島第1原子力発電所の事故に伴い、放射性

^{*10} 平成22年国勢調査結果

物質が海岸周辺にも拡散し、その汚染対策も大きな課題となっている。



写真-5 北泉・大磯海岸（南相馬市）

(2) 海岸災害と防災

ア 既往災害（高潮・海岸侵食）

福島沿岸は、太平洋に直接面しているため、台風や低気圧等の影響を受けやすく、高波や侵食等による災害が幾度となく発生して、人家の崩壊や浸水被害の他、堤防決壊による交通網の遮断等、地域住民の生活に大きな影響を与えてきた。

戦後間もなく国土が荒廃していた昭和 20 年代にはカスリン・アイオン台風等の大きな台風が来襲し、海岸部では約 20 箇所被害を受けた。

昭和 31 年の海岸法制定により、本格的な海岸保全事業が開始され、堤防や護岸等の整備が進められたが、その後も各地で堤防決壊・陥没等の被害があり、昭和 49 年の低気圧による風浪では四倉海岸で護岸が 990m にわたって被災するなどの甚大な被害を受けた。

近年では、平成 3 年 2 月の低気圧による風浪で、原町市小沢（現：南相馬市）やいわき市久之浜で堤防が決壊し、県の被害額が 10 億円を超えるような甚大な被害をうけており、平成 12 年 7 月の台風 3 号でも被害が生じている。^{*11} また、平成 14 年台風 21 号に伴う風浪では、いわき市関田において堤防が 1, 300 m に渡って被災する甚大な被害を受けており、平成 18 年は 9 月の台風 12 号及び 10 月の低気圧の風浪により福島県沿岸の各地において護岸の倒壊やブロックの散乱など海岸保全施設への被害や、波浪の堤防越波による浸水被害を受けている。



写真-6 高波による海岸保全施設の被災状況

左写真：堤防の決壊 (H3. 2) 久之浜海岸（いわき市）

右写真：越波状況 (H18. 10) 木崎海岸（新地町）

^{*11} ふくしま沿岸域総合利用構想調査(福島県：1994)、ふくしまの海岸(福島県：1994)

イ 海岸事業の変遷

海岸事業は、昭和 23 年頃からカスリン・アイオン台風に伴う災害復旧事業を契機として、県単独事業も含め逐次整備を図ってきた。昭和 31 年の海岸法制定に伴い国庫補助事業も拡充され、高潮対策や侵食対策等による整備が本格的に開始された。

本計画が策定された平成 16 年 11 月以降は、本計画に基づき自然環境の保全とレクリエーション需要に伴う海岸利用の増大に配慮し、堤防工や人工リーフ等を組み合わせた面的防御方式により、利用や環境に配慮した整備を進めてきており、高潮による浸水被害や海岸侵食の防止に大きな効果を発揮している。

しかし、福島沿岸の海岸線延長約 139km のうち対策の必要がある海岸（以後、要保全海岸とする）が約 94km（68%）あったが、このうち約 86km については海岸保全施設が設置され、高潮や侵食等による災害から人命や人家・農地等の資産が防護されたものの、50 年に 1 度程度の高潮・波浪に対して安全を確保する施設の整備済延長は、50km（53%）と依然低い水準にあった。

このため、現在でも台風や冬季風浪による災害、あるいは侵食が度々発生し、依然として甚大な被害を受けていたうえ、海岸保全施設の老朽化に伴い、修繕等も多く、防護を必要とする海岸が多かった。

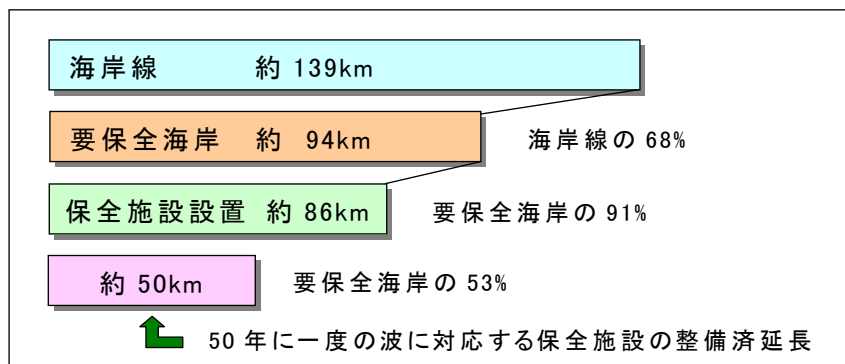


図-1 海岸保全施設の現況 （平成 23 年 3 月現在）



写真-7 海岸保全施設の効果 関田海岸（いわき市）

ウ 東日本大震災とその対応

平成 23 年 3 月 11 日に東北地方太平洋沖地震が発生し過去最大クラスの地震動や、それに伴う津波や地殻変動により、福島沿岸の海岸保全施設は甚大な被害を受けた。特に海岸堤防の被害は著しく、津波の越水による破壊、そして地震による地盤沈下に伴う堤防機能の低下等の壊滅的な被害を被った。

このため、本県では、被災地の一日も早い復興を実現するため、平成 23 年 10 月までに、応急対策を実施し被害の拡大防止を図るとともに、平成 23 年 7 月に、有識者から構成される「福島県海岸における津波対策等検討会」を設置した。

同年 10 月には同検討会の提言を受け、比較的発生頻度の高い一定程度の津波及び高潮・波浪に対応した計画堤防高を基本とすることや、堤防を超える津波に対しても粘り強く対応する構造とすること、さらには、発生頻度が極めて低いものの発生すれば被害が甚大となる「最大クラス津波」に対しては、住民避難を軸としてハードとソフトを組み合わせた総合的な防災対策で対応すること等の基本的事項を決定した。

この基本的事項に基づき、一部の地区海岸においては海岸堤防等の本復旧工事に先行的に着手するとともに、変更した計画に基づき、海岸堤防の早急な復旧を進めていく。

また、最大クラス津波に対しては、海岸堤防だけでなく、防災緑地や道路の整備、土地利用の再編など、複数の手法を組み合わせた多重防御を図ることとしている。



写真-8 東日本大震災による海岸保全施設の被害状況

2 沿岸の基本理念

福島沿岸の後述する現況及び課題を踏まえて、今後の福島沿岸における保全の方向は、以下の基本理念に基づき進めていく。

～ともに考え、ともにつくり

未来へ残そう “うつくしまの海岸” ～

福島沿岸は、雄大な崖、広い砂浜、緑の松林、青い海が一体となった優れた自然環境が多い。これらの自然は福島県の貴重な財産であり、地域住民の余暇や憩いの場としての利用が盛んである。

住民意見を把握するために平成 13 年に行ったアンケート調査によると、住民の意識としては海岸に対してまだまだ防護が必要と思っているが、自然環境の保全も強く求めており、利用に関しては自然環境と調和した利用の推進を望んでいる。さらに、県民の多くがゴミ問題や不法投棄に関心が高い。これらのことを考慮し、福島沿岸の海岸保全の基本的方向は、国の定めた海岸保全基本方針に基づく**防護、環境、利用に愛護**を加えた4つの施策の調和を図り、美しく、安全で、いきいきした海岸を次世代に継承していくことを基本理念とした。

また、福島沿岸では、防護・環境保全・利用促進・愛護啓発の面で様々な課題があることから、施策の実施にあたっては、海岸管理者や地域住民などの関係者間において、様々な観点から検討を行い、合意形成を図るものとする。

このため、海岸保全全般にわたり、ともに考え、ともに行動するという観点から、より一層住民などの参加を図るよう積極的な情報発信を行っていくものとする。

3 海岸の防護に関する事項

(1) 防護の施策

ア 現況と課題

福島沿岸は、太平洋に直接面しているため台風や低気圧等の影響を受けやすく、高波や侵食等による災害が幾度となく発生している。このため、海岸保全施設等による整備が昭和 30 年代から進められてきたが、未だ海岸保全施設の整備率は 4 割程度であり、依然として何らかの対策を必要とする海岸が多く残っている。



写真-9 堤防の決壊 (S62.9)

小沢海岸（南相馬市）

また、平成 23 年 3 月には、東北地方太平洋沖地震が発生し、地震とそれに伴う津波によって、海岸保全施設を含め、沿岸地域が壊滅的な被害を受けており、比較的発生頻度の高い一定程度の津波、及び高潮・波浪から浸水を防止するため海岸堤防の早急な復旧整備が求められている。

一方、砂浜は消波効果があり、また海岸林は飛砂やしぶきを防止する効果を併せて持つことから、防護能力向上のために、従来工法に加え、砂浜の維持・回復や海岸林の積極的な保全を行う必要がある。

福島県の海岸は、昭和から平成にかけて約 20m 以上の砂浜が後退した海岸線延長が、約 19km にも及ぶなど侵食傾向にある^{*12}が、海岸侵食のメカニズムは、国や大学の研究機関で調査研究されているにもかかわらず、未だ明確にされていないのが現状である。しかし、砂浜海岸では、主要な土砂供給源となっている河川上流域での治山・砂防工事やダム建設、河川改修工事等により、海浜への土砂の供給量が減少するとともに、発電所等の構造物による沿岸漂砂への影響等が侵食の要因の一つと考えられる。また、崖海岸は土砂の供給源の一つと考えられるが、侵食による崩壊等が生じ、人家や農地などに危険が迫っているため、侵食対策が必要である。このような状況では、河川流域や崖海岸からの必要な供給土砂量が見込めないことから、堆砂が著しい隣接海岸等からの土砂流用やダム内の堆砂土砂を有効に利活用するなど、総合的な土砂管理の検討を進めているが、東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下の影響を加味し、具体的な施策の実施に向けさらなる検討を進める必要がある。

一方、平成 23 年の東北地方太平洋沖地震津波のような最大クラスの津波が堤防を越えて起きる災害から、人命や財産を守るためには、施設整備だけでな

^{*12} 地形図の比較による全国の海岸線変化（田中茂信他）：海講：1993, vol.40, pp.416-420

く緊急時に迅速な行動が出来るよう、津波浸水想定区域図の提供によるハザードマップの作成支援や、ライブカメラの映像の配信など、警戒避難体制の充実を図るとともに、防災教育を通じた住民の危機管理意識の向上に努めるなど、警戒避難体制の充実等が必要である。

また、沿岸部には水族館などの文教施設や、観光施設、集客施設など多くの人が集まる施設があり、警戒避難体制の検討にあたっては、地域住民のみならず、観光客など地域外から訪れた海岸利用者にも配慮する必要がある、関係機関との連携が不可欠である。

イ 基本方針

○適切な能力を持つ防災施設整備

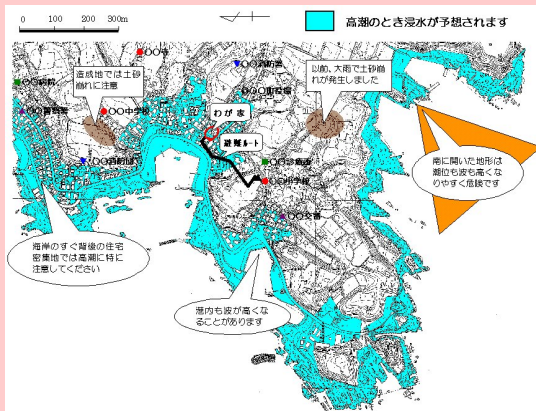
比較的発生頻度の高い一定程度の津波及び高潮・波浪に対応した計画堤防高を基本に、東日本大震災による教訓を踏まえ、堤防を超えた津波に対しても粘り強く対応する構造による整備を行う。また、今後も沖合施設の整備等により、安全度の向上を図るとともに防護能力向上のために、従来工法に併せて砂浜の維持・回復や海岸林の積極的な保全を図る。

○土砂収支の解明と総合土砂管理

海岸侵食に対する抜本的な保全対策のため、広域的・長期的な視野に立った土砂収支の解明と治山・治水等関係部局とも連携した総合土砂管理を推進する。

○警戒避難体制の充実

東日本大震災を機に、最大クラスの津波も想定した災害に際して取るべき行動や、安全な場所への避難・誘導に関する理解を高めるため、ハザードマップの作成支援やインターネット等による海岸防災情報等の提供を推進し、消防関係部局や市町村等と連携した警戒避難体制の充実を図る。



警戒避難体制の充実
(高潮ハザードマップの事例)



安全度の向上（越波状況）
久之浜海岸（いわき市）

写真-10 防護の施策

4 海岸環境の整備及び保全に関する事項

(1) 海岸環境の整備及び保全のための施策

ア 現況と課題

福島沿岸では、いわき市の海岸が県立自然公園として指定されているなど、優れた自然環境が未だ数多く残されている。また、沿岸域は多くの動植物の生息・生育の場となっており、近年ではコアジサシやアカウミガメ等の貴重な動物も確認されている。しかし、一部の利用者のモラル低下から、海浜への車両乗り入れ等により、動植物へ多大な影響を与え、生息・生育環境が損なわれている海岸もある。このようなことから、環境部局と連携して環境保全を行う必要がある。

地域にとって重要な環境の一つである海岸林については、その多くが平成 23 年東北地方太平洋沖地震による地盤沈下や、津波による流失等による被害を受けているため、防災機能を確保しつつ、早期の復旧が必要である。

福島沿岸の水質や砂浜は、概ね清浄であり、この状態を維持・向上させるため、下水道普及率の向上等による陸域と海域が一体となった水質保全及び砂浜の清浄性の保持を推進していく必要がある。

利用者のモラル向上については、一人ひとりの海岸に対する知識の深さ、関心の高さによる割合が大きいことから、環境教育の充実に努め、地域における海岸愛護活動が推進されるような人材を育成する必要がある。

なお、平成 23 年東北地方太平洋沖地震の地盤沈下や津波による自然環境への影響については、現時点で不明確な点が多いため、今後も経過観察を行うなど、引き続き野生動植物の生息生育環境の変化を注視していくとともに、必要に応じて順応的に保全対策を講じていく必要がある。

また、海岸保全施設は、海岸線に沿って陸側と海側の見通し線上に連続的に設置されることから、東日本大震災において被災し、復旧する海岸堤防も含め、その整備に際しては、地域の良好な景観に十分配慮する必要がある。



写真-11 ハマヒルガオ群落
烏崎海岸（南相馬市）

イ 基本方針

○動植物の保全対策

沿岸域の希少な動植物の生息生育殖環境を保全するため、立入規制（区域指定）などを関係機関と連携して実施するほか、海岸工事においても、東日本大震災による環境変化を踏まえた対策を講ずる。

○海岸林の保全

津波等により被害を受けた海岸林については、早期の復旧を図るとともに、今後も地域住民等の協力による海岸林内の美化や維持管理活動を実施して海岸林の保全を図る。

○水質・砂浜の清浄化の促進

良好な水質や砂浜の環境を将来にわたって維持していくため、関係機関や住民との協力により、下水道整備や生活排水等の減量による水質保全を推進する。

○環境教育及び啓発活動の推進

一人ひとりが環境問題に対する関心を高め、環境に対する自らの責任と役割が理解できるよう、海岸環境に関する環境教育及び啓発活動を関係機関と連携して推進する。

○良好な海岸景観の保全

海岸保全施設の整備に際しては、良好な景観を損なわないよう配慮する。



動植物の保全対策（アカウミガメの保護）
四倉海岸（いわき市）

環境教育及び啓発活動の推進
永崎海岸（いわき市）



写真-12 海岸環境の整備及び保全のための施策

(2) 海岸保全施設の維持又は修繕に関する方針

各海岸における海岸保全施設の維持又は修繕については、地域の安全・安心のために以下の管理内容を基本として実施するとともに、海岸利用形態に応じた配慮事項を整備箇所整理表において整理する。また、隣接する海岸においては、各所管海岸管理者間で調整を行い、適切な管理に努める。

施設毎の管理内容

施 設	内 容
土木構造物 堤防、護岸、消波 施設、突堤等	日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び 5 年に 1 回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
砂浜	日常巡視を実施し、砂浜の地形変化状況を監視する。
機械・電気設備を含む施設 水門(樋門)等	施設及び施設を操作するために必要な機械、器具等を良好な状態に保つよう、操作規則等に従い、定期的に点検・整備を行う。

5 海岸における公衆の適正な利用に関する事項

(1) 海岸利用促進のための施策

ア 現況と課題

福島沿岸には、白砂青松に称されるような優れた自然環境が残されているだけでなく、多くの海水浴場や海岸と一体となった野外施設・スポーツ施設・学習施設等があり、県内外の多くの人々が余暇や憩いの場として利用している。また、地元住民の多くが海浜を散策など日常的に利用している。しかしながら、一部の海岸では、以前に整備された直立堤防等により、海辺へ近づきにくく、更に海岸へのアクセス道路がない等、利用するうえで不便な海岸があることから、海辺へ近づくことができる工夫が必要である。

住民の意識によると、トイレ・駐車場等の利便施設は、数が少ないなど整備が不十分であり、また高齢者等の生活弱者に対しての配慮が不足しているとの意見もあることから、より一層の配慮が必要である。

なお、海岸利用を促進するため、東日本大震災を契機に海岸背後に整備が予定されている防災緑地や海岸防災林と一体となった利便施設等の整備を検討していく。

一方、東北地方太平洋沖地震に伴う津波による被害を教訓に、海岸の利用者がいつでも速やかに避難できることの重要性が再認識された。このため、避難路へのアクセスし易さに加え、迅速かつ的確な避難の確保に配慮した施設配置が必要である。さらには、海水浴など日頃からの海岸利用を通じ、海岸の利用者に津波発生時における早期避難の大切さを理解してもらうための啓発活動も重要である。

沿岸域は、良好な漁場であるとともに、カレイ等の魚類の産卵や稚魚育成の場となっている。このため、海岸保全施設の計画及び設置に際しては、水産利用との調和を図る必要がある。

一方福島沿岸は、海水浴、サーフィン、釣り、プレジャーボート等の海洋性レクリエーションが盛んであることから、漁業活動との摩擦や違法駐車等の問題が発生している。このため、海岸管理者を含めた利用者や地域住民とのトラブルを未然に防ぐための海岸利用のルールづくりが必要である。



改修前

改修後



写真-13 久之浜海岸（いわき市）

イ 基本方針

○ 海辺への近づき易さの向上

海岸の利用頻度に応じて、直立堤防（護岸）から緩傾斜堤防（護岸）への改善等により海辺への近づき易さを向上させるとともに、関係機関に協力を求め海岸へのアクセス道路を整備する。

○ 災害発生時における海岸利用者の安全性の確保

海岸保全施設の整備に際しては、市町と連携し、津波等の災害発生時に海岸利用者が避難しやすいものとなるよう配慮する。

○ 利便施設の充実

トイレや駐車場等の利便施設の整備について、市町等と協力しながら整備の促進やバリアフリー化を図る。

○ 水産利用に対する配慮

海岸保全施設の整備に際しては、水産利用との調和を図り、水産資源の保護・育成に対する配慮を行う。

○ 利用におけるルールづくりの推進

海岸管理者、利用者、漁業関係者、地域住民等が協力して話し合いの場をつくり、地域にあったルールづくりを推進する。



海辺への近づき易さの推進
豊間海岸（いわき市）



地域にあったルールづくりの推進
請戸海岸（浪江町）

写真-14 海岸利用促進のための施策

6 海岸における愛護啓発に関する事項

(1) 海岸の愛護啓発のための施策

ア 現況と課題

福島沿岸では、平成 13 年に実施したアンケート調査でも多くの県民が、海岸にはゴミが多いと感じているように、ほとんどの海岸でゴミの置き去りや不法投棄が問題となっているが、海岸管理者や市町村だけでは対応しきれていない状況にある。現在、市町村・学校・地域住民・ボランティア団体等、多くの人々が海岸美化活動に参加しているが、更なる日々の海岸美化活動が重要となっており、海岸愛護思想の普及と啓発を図る必要がある。

県や市町村では、ゴミの置き去り、ゴミの不法投棄防止の対策として、看板やバリケードを設置する等の取り組みを行っているが、依然不法投棄は後を絶たない状況にある。このため、福島県産業廃棄物ボランティア監視員制度や各市町村が郵便局・電力会社・タクシー会社等と締結している不法投棄の情報提供協定による監視制度等を今後も積極的に活用していく必要がある。

また、海岸保全施設については、定期的・効率的に点検し、異常箇所等の早期発見ができる体制が必要である。さらに、トイレ・駐車場等の利便施設は、年間を通して利用できるように地域住民からの要望もあり、日常的な維持管理を行う必要がある。



写真-15 豊間海岸（いわき市）

イ 基本方針

○海岸美化活動の推進

清掃活動の仕組みづくり等、住民の協力を得ながら、計画的、効果的な海岸美化活動を推進する。

○ゴミの不法投棄防止対策の推進

海岸パトロールの実施や警告看板の設置等を行うとともに、ゴミの不法投棄を未然に防止する制度等の仕組みづくりを環境部局、観光部局、市町村、地域住民等と協力して推進する。

○日常的な維持管理体制の確立

地域住民の協力により、日常的な海岸パトロールを実施して、海岸保全施設の状況及び異常発生の有無を発見できる仕組みづくりを推進する。

また、トイレ・駐車場等の便民施設について、市町村等と協力しながら日常的に管理が行える仕組みづくりを推進する。



海岸美化活動の推進
毛萱海岸（富岡町）

ゴミの不法投棄防止対策等の推進
渋佐・萱浜海岸（南相馬市）

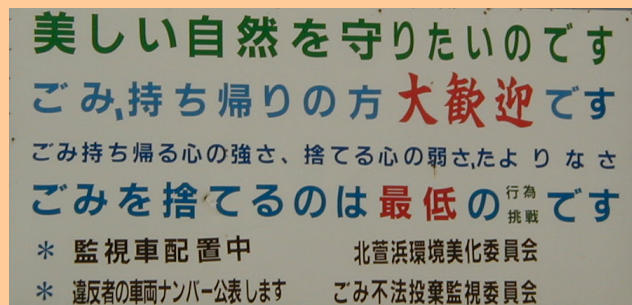


写真-16 海岸の愛護啓発のための施策

第2 海岸保全施設の整備に関する事項

1 海岸保全施設を整備しようとする区域

(1) ゾーン及びブロック区分

福島沿岸は、延長が約 139km と非常に長いので、自然条件や社会条件等の特性を海岸整備の方向性に反映させるために、これらの特性が類似した 3 つのゾーンに区分した。

さらに、各ゾーン内を海岸の整備を行う際に重要となる砂浜や崖等の海岸形態、漂砂を制限する地形・構造物、自然環境保全状況等が概ね同じとなるように、20 のブロックに区分し、整備しようとする区域を定めた。

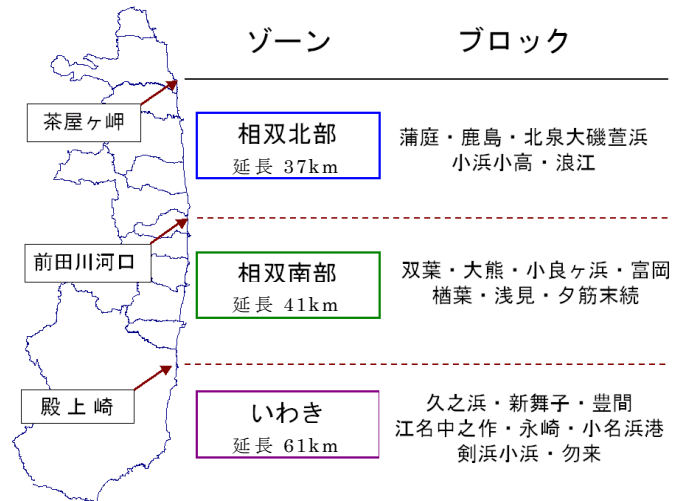


図-2 ゾーン及びブロック区分

(2) 施設整備にあたっての方針

福島沿岸では、堤防・護岸の天端高 T.P. +6.2m を目安として整備してきた。その後、東日本大震災を契機に、比較的発生頻度の高い一定程度の津波及び高潮・波浪に対する防護の考え方として、平成 23 年 10 月に「福島県沿岸における津波対策検討会」による提言を受け、堤防・護岸の計画高の目安を T.P. +7.2m ～ T.P. +8.7m に変更した。この高さを基準に、背後地の重要性、土地利用、環境保全の必要性の有無、景観保全の必要性、海浜の利用程度、隣接区間との整合性等を考慮し、最も効率的かつ効果的な整備を行う。

- 比較的頻度の高い一定程度の津波に対しては、海岸堤防や水門等からの越流が生じないようにする。
- 高波・波浪等から防護する海岸については、海岸保全施設により打上げ高の低減を図る。
- 海岸侵食が進行している海岸については、現状の汀線維持、或いは必要に応じて汀線の回復を図るとともに、沿岸漂砂の連続性や土砂収支のバランスに配慮した対策を実施する。

(3) 海岸保全施設整備の考え方

福島沿岸の基本方針及び各ブロックの特徴や課題を踏まえ、防護・環境・利用・愛護の各観点から、今後整備が必要と思われる区域と施設整備にあたっての考え方について以下に示す。

なお、海岸保全施設については、日頃から管理等が行える体制を整える。

また、本計画の整備対象範囲は、福島沿岸の海岸線の内、港湾施設、漁港施設、発電施設、河口（河川区域）を除く。

ア 防護施設に対する考え方

砂浜海岸では、堤防高が高波の打上げ高を下回る区域、並びに侵食により砂浜幅が狭くなり越波の恐れがある区域について、堤防や護岸施設、養浜、或いは沖合施設を配置して越波を防止する。

一方、崖海岸の侵食防止が不十分な区域については、消波施設等を配置して崖の侵食を防止する。

こうした防護施設の整備にあたっては、地元市町や住民の意見聴き取りを十分に行い、総合的に様々な手法を検討しながら、砂浜の回復を図るなど自然環境や景観、利用の面にも優れた防護を推進する。

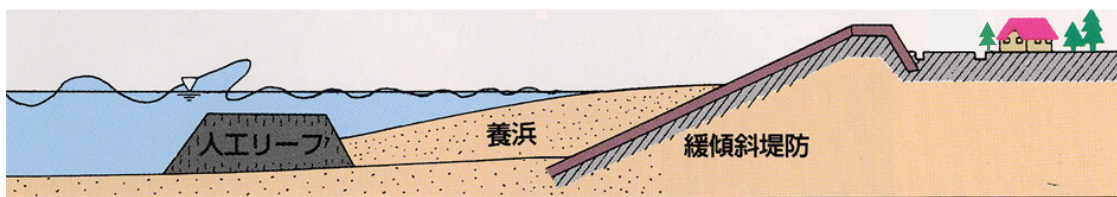
津波及び高潮に対しては、比較的発生頻度の高い一定程度の津波及び高潮・波浪に対する安全性を踏まえた計画堤防高を基本とするとともに、沖合施設と、堤防・護岸施設等を組み合わせて面的に配置し、必要な耐震性能を確保する。

また、東日本大震災では、堤防を越流した津波により多くの海岸堤防が破壊され、浸水被害が拡大したことを踏まえ、海岸保全施設は、堤防を越えた津波に対しても粘り強く対応する構造とすることを基本とし、必要に応じて緑の防潮堤も検討する。

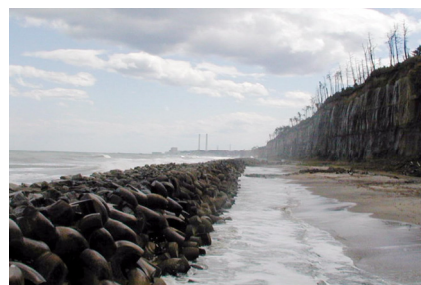
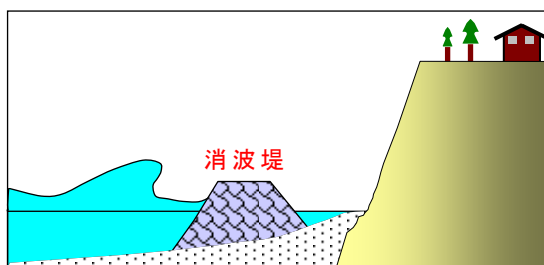
さらに、防護施設の整備に際しては、海岸利用者にとって施設が安全な構造であることはもちろん、津波が到達するおそれがあるときに、より避難しやすいものとなるよう配慮する。



写真-17 久之浜海岸（いわき市）



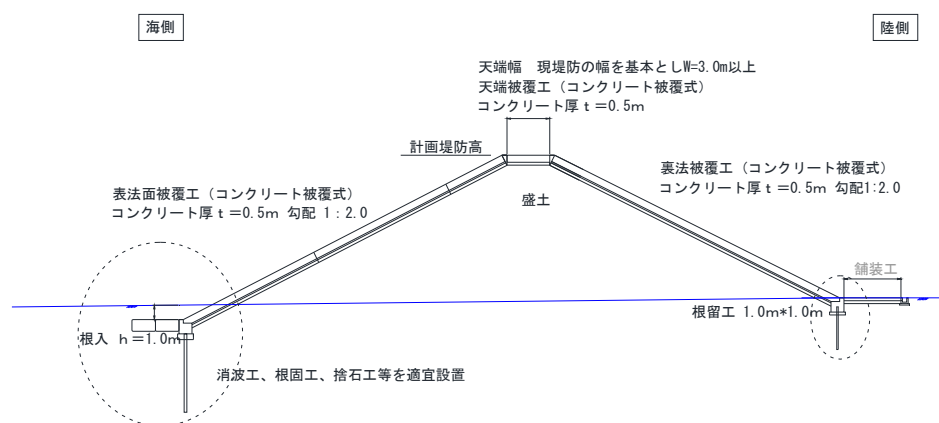
・面的防護方式



・崖海岸の防護状況 繁岡海岸（檜葉町）

図-3 防護施設の考え方

標準断面（傾斜堤）



標準断面（直立堤）

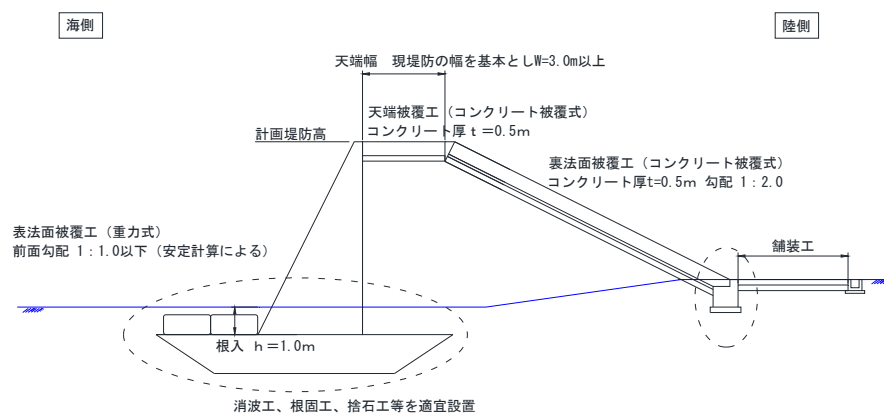


図-4-1 粘り強い構造例

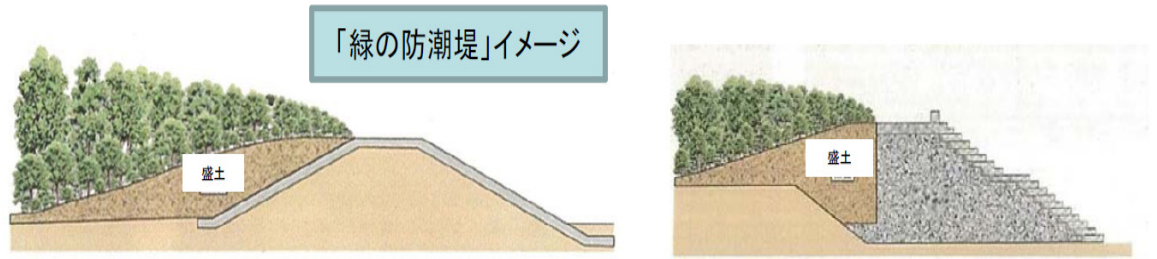


図-4-2 粘り強い構造例（緑の防潮堤イメージ）

イ 環境保全に対する考え方

福島沿岸は、豊かな自然環境に恵まれた地域であり、地域の自然環境の特性を十分に把握した上で環境の保全に配慮することが必要である。そのため、海岸林や砂浜植生、希少な動植物の生息・生育場等に対して影響が少ない計画に努め、地元住民や関係機関と協力して保全対策を検討する。

特に、東北地方太平洋沖地震による地盤沈下や津波による地形変化に伴い、野生動植物の生息生育環境にも変化が認められるが、現時点では不明確な面が多い。このため、震災からの海岸保全施設の復旧工事に際しては、周辺箇所の自然環境の現状把握に努めるとともに、有識者や地元の意見を聴くなどしながら、必要に応じ自然環境の保全に順応的に配慮した対策を講ずる。

また、海岸堤防などの海岸保全施設の整備においては、堤防法尻を覆土することにより視覚的圧迫感の軽減を図るほか、過度な装飾を施さずシンプルな見映えにし、風景への溶け込みを期待するなど、地域の良い景観に十分配慮する。

ウ 適正な利用に対する考え方

福島沿岸は、海水浴場を始めとする多くの施設等があり、海岸の利用が盛んである。このため、海岸の適正な利用への配慮として、階段式の護岸やスロープの設置、既存堤防等への階段設置等により、誰もが海岸へ近づき易く、また津波発生時などには、迅速かつ的確な避難が可能となるよう施設計画を行う。

2 海岸保全施設の種類、規模及び配置等

(1) 海岸保全施設の特徴

ア 護岸・堤防施設

○直立堤防・護岸 背後地の浸水・越波を防止することを目的に設置される。

- ・ ほぼ垂直な構造のため、背後地から水際線へのアクセスを阻害する場合がある。

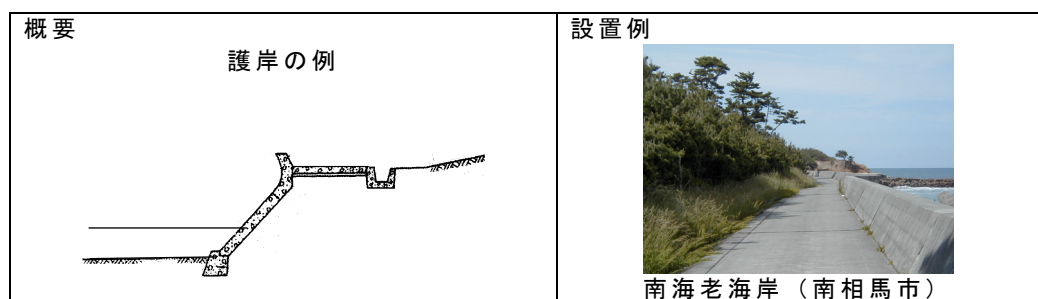


図-5 直立堤防・護岸

○緩傾斜堤防・護岸

- ・ 緩傾斜堤防・護岸は、直立堤防・護岸と同様に背後地の浸水・越波を防止することを目的として設置される。
- ・ 斜面の勾配が緩いことから、背後地から水際線へのアクセスが確保される。
- ・ 前面に十分な砂浜があることが設置の条件となる。

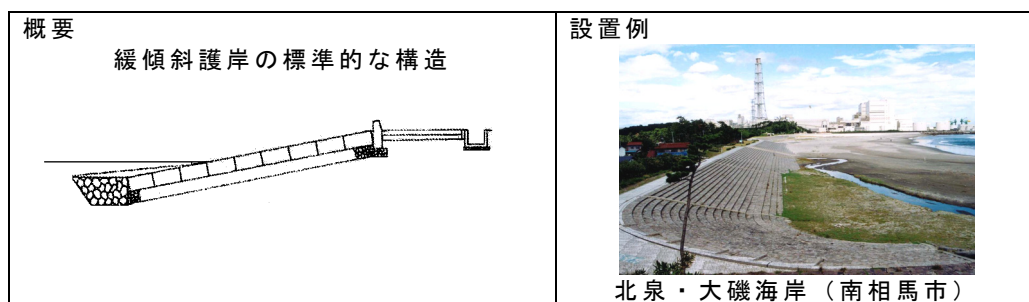


図-6 緩傾斜堤防・護岸

○消波工

- ・ 堤防・護岸の付帯工として堤防・護岸に対する越波や波圧の低減を目的として設置される。
- ・ 砂移動を制御する効果は無いことから、砂礫海岸における侵食防止は期待できない。
- ・ 比較的短期間での施工が可能である。
- ・ 背後地から水際線へのアクセスを阻害する。また、異形ブロックにより作成される場合が多く、景観を悪くする場合がある。

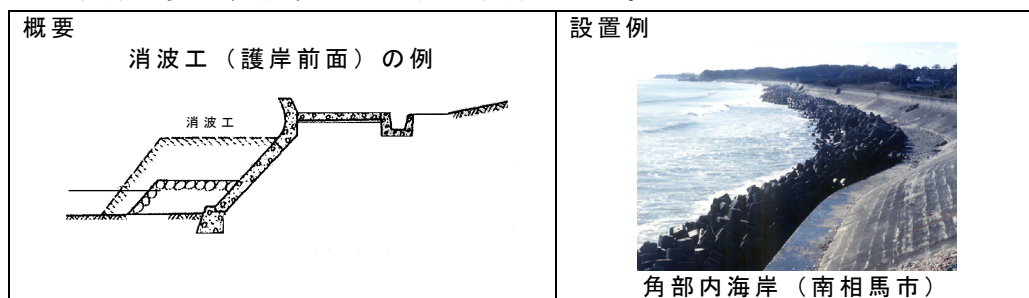


図-7 消波工

イ 消波施設

○消波堤

- ・ 汀線付近に設置することにより、設置地点より陸側の侵食を防止する。
- ・ 海側の砂の移動を制御する効果はないことから、汀線前進は期待できない。
- ・ 消波工と同様に、比較的短期間での施工が可能である。
- ・ 砂浜から水際線へのアクセスを阻害する。また、異形ブロックにより作成される場合が多く、景観を悪くする場合がある。

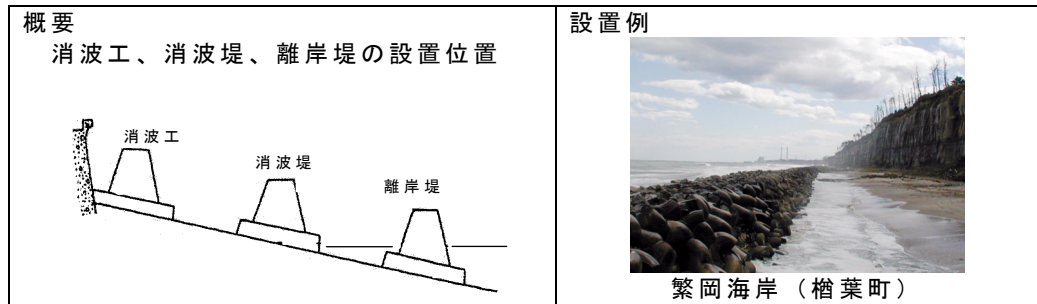


図-8 消波堤

ウ 沖合施設

○離岸堤

- ・ 汀線から離れた沖側の海域に、汀線にほぼ平行に設置する構造物であり、直接的には波・流れの制御を目的とする構造物であり、間接的に砂移動を制御する。
- ・ 直接波浪を制御するため、様々な諸元の波浪に対し、一定の波浪低減効果を有する。
- ・ 海面上に異形ブロックが突出するため、海岸景観を悪くする場合がある。
- ・ 堤体は、生物の生息・生育のための環境基盤としても機能する。

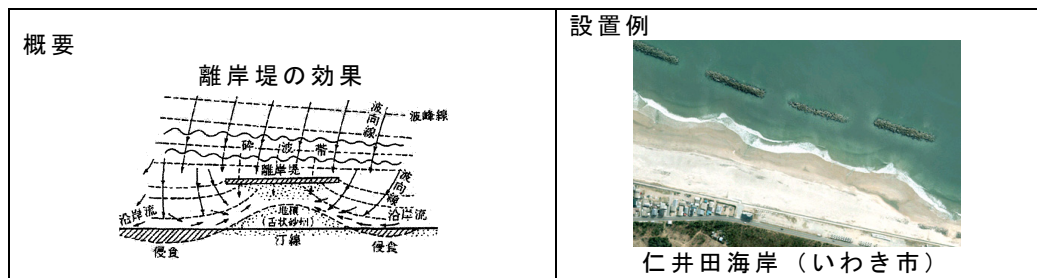


図-9 離岸堤

○人エリーフ

- ・ 自然のサンゴ礁が持つ優れた消波機能を模した構造物であり、その構造から天端幅がかなり広い潜堤と位置付けられる。
- ・ 離岸堤と同様に直接的には波・流れの制御を目的とする構造物であり、間接的に砂移動を制御する。
- ・ 堤体が水面下に没しているため、景観上の要請が強い場合には最適な工法である。
- ・ 離岸堤と同等の消波効果を得るためには堤体規模が大きくなる。

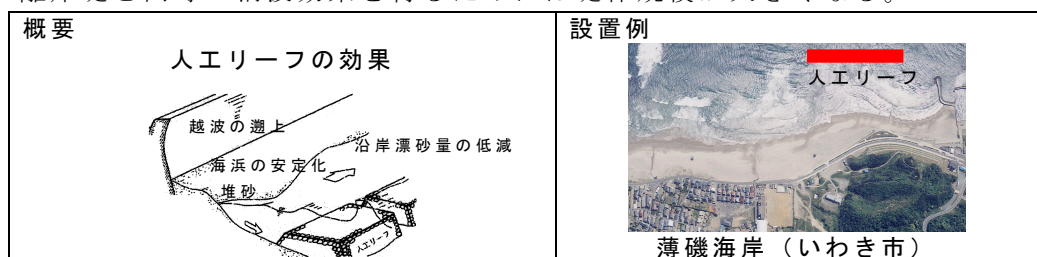


図-10 人エリーフ

エ 突堤・ヘッドランド

- ・ 沿岸方向の砂の移動が卓越する直線的な海岸を比較的長い間隔で突堤や離岸堤等の海岸構造物によって区切り、構造物間の海浜の安定性を図る工法。
- ・ 汀線の形状は、突堤・ヘッドランド付近で前進、中央付近で後退となる変化を示し、平衡状態に達すると安定な海浜地形が形成される。
- ・ 構造物の設置間隔を比較的広くでき、海岸域の利用・自然環境に直接及ぼす影響を軽減できる。

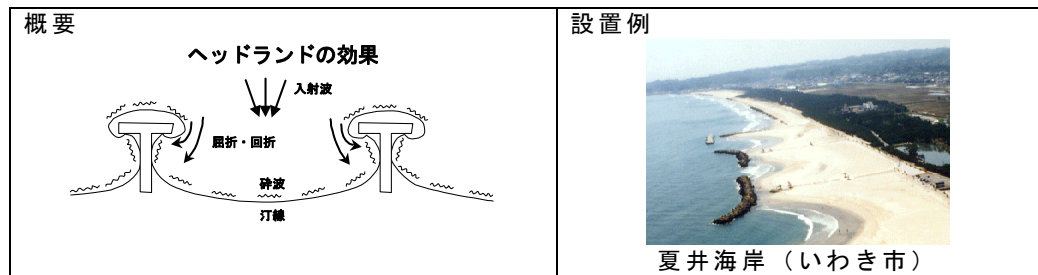


図-11 ヘッドランド

オ 養浜・サンドバイパス・サンドリサイクル

- ・ 養浜は、侵食が進んだ砂浜あるいは砂浜が無かった海岸に他所より砂を持ち込み、砂浜を復元あるいは新たに造成する工法である。
- ・ サンドバイパスは、構造物の上手側に堆積した土砂を構造物の下手側の侵食箇所投入する工法で、航路埋没や河口閉塞の対策として侵食した土砂の有効活用を図ることができる。
- ・ サンドリサイクルは、下手側あるいは沖側に流出した土砂を繰り返し上手側に投入する方法であり、漂砂を制御する施設を比較的小規模にすることができる特徴がある。

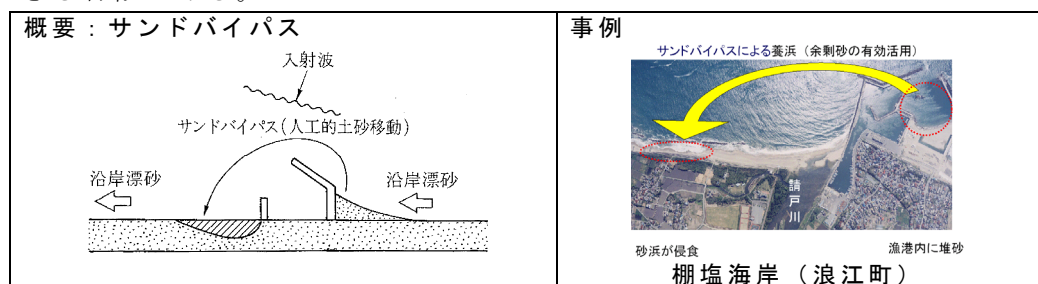


図-12 サンドバイパス

(2) 計画事項

海岸保全施設の種類、配置及び受益の地域について表-1 に示す。

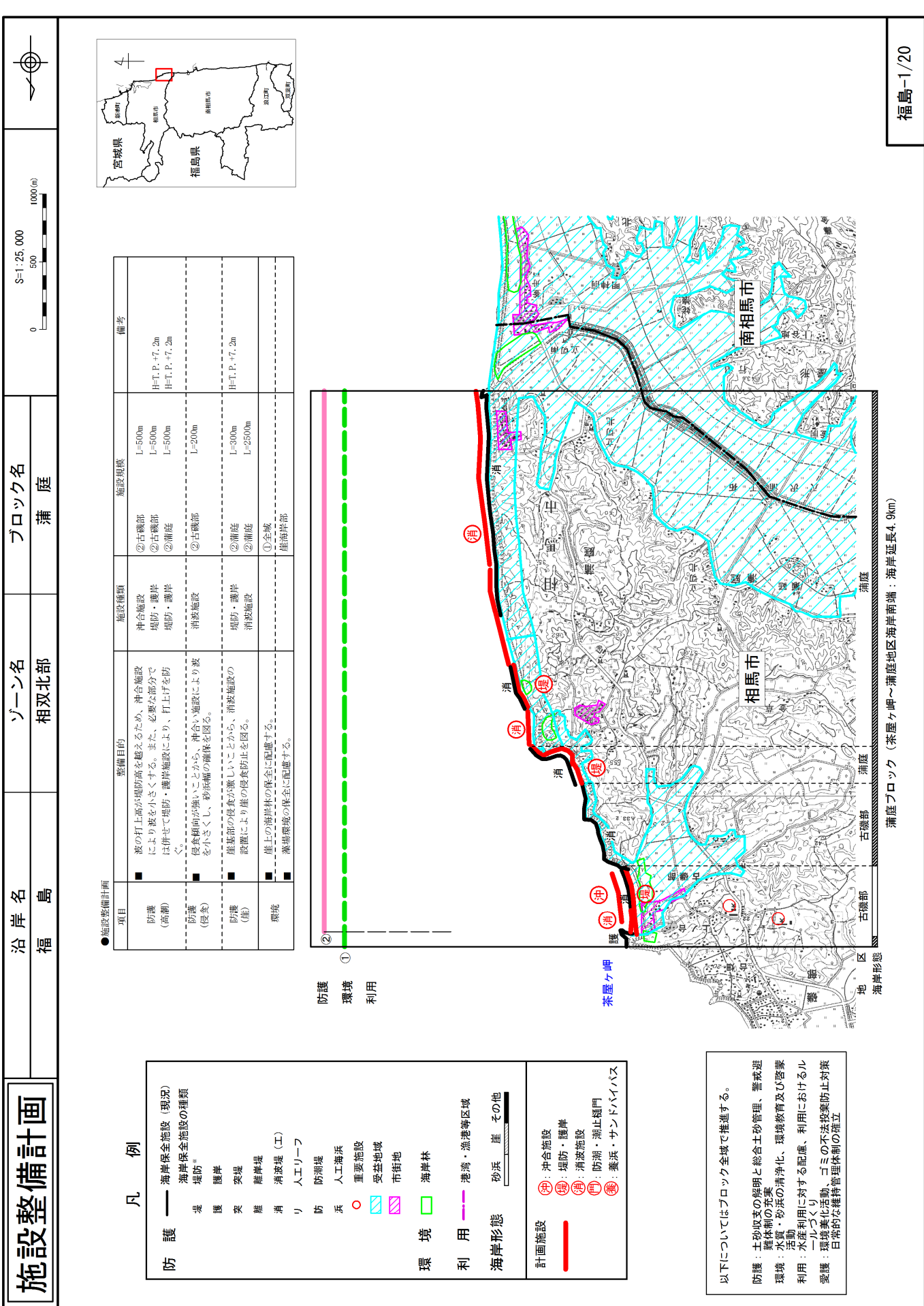
ゾーン名	ブロック名	区域番号	配置		種 類	受益の地域				
			区域	規模		地域	状況			
				延長(ｍ)				計画堤防高		
相双北部	蒲庭	②	相馬市磯部字古磯部地区	500	T.P.+7.20m	相馬市の一部	住宅地、農地、森林、工業用地			
		②	相馬市磯部字古磯部地区	500						
		②	相馬市磯部字古磯部地区	500						
		②	相馬市磯部字古磯部地区	200						
		②	相馬市磯部字軽井沢	300						
		②	相馬市蒲庭字軽井沢～字孫目	2,500						
	鹿島	①	相馬市蒲庭孫目～南相馬市鹿島区北海老字釜戸北	400	相馬市の一部 ～南相馬市の一部	住宅地、農地、森林				
		①	相馬市蒲庭孫目～南相馬市鹿島区北海老字磯ノ上	1,800						
		①	相馬市蒲庭字孫目・南相馬市鹿島区北海老字釜戸北	2箇所						
		③	南相馬市鹿島区南海老字釜前～字菱沼	800						
		③	南相馬市鹿島区南海老字北原～南右田字ニツ沼	2,600						
		⑤	南相馬市鹿島区島崎字牛島～字南入	1,400						
	北泉大磯・萱浜	⑤	南相馬市鹿島区島崎字牛島～字戸屋	300	南相馬市の一部	住宅地、農地 住宅地 森林				
		①	南相馬市原町区金沢字浦～北泉字地藏堂	800						
		④	南相馬市原町区泉字大磯～字惣ヶ沢	900						
		⑤	南相馬市原町区下洪佐字湊～萱浜字東蔵前	700						
		⑤	南相馬市原町区下洪佐字後川～原町区雫字北畑	3,200						
		⑤	南相馬市原町区雫字北畑	200						
	小浜・小高	②	南相馬市原町区小浜字西内	200	T.P.+7.20m	南相馬市の一部	住宅地、農地、森林			
		③	南相馬市原町区小沢字東谷地～小沢字下戸屋迫	1,000						
		③	南相馬市原町区小浜字下谷地～小浜字東谷地	1,600						
		③	南相馬市原町区小浜字下谷地	1箇所						
		④	南相馬市小高区塚原字釜ノ上	400						
		④	南相馬市小高区塚原字釜ノ上	200						
		⑤	南相馬市小高区村上字横砂～角部内字入羽和形	3,300						
		⑤	南相馬市小高区村上字横砂～字仲川原	400						
		⑤	南相馬市小高区角部内字貝塚～字入羽和形	800						
		⑥	南相馬市小高区角部内字入羽和形～浦尻字町	1,900						
		⑧	南相馬市小高区姥沢字釜谷	1箇所						
		①	浪江町大字棚塩字北大谷地～字向川原	1,100				浪江町の一部	住宅地、農地、森林	
		①	浪江町大字棚塩字砂田～字南川原	100						
		①	浪江町大字棚塩字砂田～字南川原	1箇所						
		④	浪江町大字請戸字北久保～双葉町大字中浜字南川原	3,400						
		④	浪江町大字請戸字北久保～双葉町大字中浜字南川原	1,100						
		④	浪江町大字中浜字長沼	1箇所						
		浪江	⑦	南相馬市小高区浦尻字北原～浪江町大字棚塩字弥平迫				2,235	南相馬市の一部 ～浪江町の一部	
	相双南部	双葉	①	双葉町大字中野字羽山前～大字郡山字沼ノ沢	500	T.P.+7.20m	双葉町の一部	農地		
			④	双葉町大字郡山字大原山	300					
			④	双葉町大字郡山字久保谷地～字大原山	500					
大熊		①	大熊町大字夫沢字東台	200	T.P.+8.70m	大熊町の一部	住宅地、森林			
		①	大熊町大字夫沢字北台	500						
		③	大熊町大字小入野字東平～大字熊川字八坂	700						
小良ヶ浜		③	大熊町大字熊川字八坂～大字小良浜字高平	800	T.P.+8.70m	富岡町の一部	農地、森林			
		②	富岡町大字仏浜字釜田	2,300						
		③	富岡町大字仏浜字釜田	1,100						
富岡		①	富岡町大字仏浜字釜田～大字毛萱字前川原	1,700	T.P.+8.70m	富岡町の一部	住宅地、農地			
		①	富岡町大字仏浜字釜田	200						
		②	櫛葉町大字波倉字浜畑	400						
		②	富岡町大字大字波倉字浜畑	200						
		②	櫛葉町大字波倉字浜畑～大字井出字本釜	3,400						
櫛葉		③	櫛葉町大字井出字本釜～字小田	700	T.P.+8.70m	櫛葉町の一部	農地、森林 住宅地、農地			
		⑤	櫛葉町大字前原字宿田～大字山田字浜後	1,400						
		②	広野町大字下北迫字北釜	200						
浅見		③	広野町大字下北迫字久保田～大字下浅見字前川原	800	T.P.+8.70m	広野町の一部	住宅地 農地 住宅地、農地			
		④	広野町大字折木字高萩～字正木内	500						
		②	いわき市久之浜町末続字岸内～字館	500				T.P.+7.20m	いわき市の一部	住宅地 森林 住宅地
夕筋・末続		③	いわき市久之浜町末続字深谷～久之浜町金ヶ沢字腰目作	1,300						
		④	いわき市久之浜町金ヶ沢字戸ノ入	200						
		⑤	いわき市久之浜町久之浜字立	100						
		久ノ浜	①	いわき市久之浜町久之浜字東町～久之浜町田之網字横内	2,700	T.P.+7.20m	いわき市の一部	市街地、商業用地		
	①		いわき市久之浜町田之網字横内	2箇所						
③	いわき市四倉町字6丁目～字5丁目		1,400							
新舞子	③	いわき市四倉町字東4丁目～四倉町上仁井田	2,100	T.P.+7.20m	いわき市の一部	住宅地、農地、森林				
		③	いわき市四倉町上仁井田字東山～四倉町下仁井田字須賀向				900			
		④	いわき市四倉町下仁井田字須賀向～平下神谷字釜ノ台				3,700			
		④	いわき市四倉町下仁井田字須賀向～平下神谷字釜ノ台				2,600			
		⑤	いわき市平下大越字南横手～平沼ノ内字浜街				4,500			
		⑤	いわき市平沼ノ内字浜街				300			
	豊間	⑤	いわき市平沼ノ内字浜街	300	T.P.+7.20m	いわき市の一部	住宅地			
		②	いわき市平沼ノ内字浜街～平薄磯字宿崎	300						
		②	いわき市平薄磯字北ノ作～平薄磯字宿崎	1,500						
		④	いわき市平豊間字塩屋町～平豊間字塩場	3,000						
江名・中之作	④	いわき市平豊間字塩場	1箇所	T.P.+7.20m	いわき市の一部	市街地				
	①	いわき市江名字走出～江名字東町	1,000							
	③	いわき市江名字江ノ浦～折戸字岸浦	700							
	④	いわき市中之作字須賀～永崎字川畑	1,200							
	①	いわき市永崎字川畑～下神白字武城	2,400							
	①	いわき市永崎字大平	1箇所							
	小名浜港	①	いわき市下神白字松下				200	T.P.+7.20m	いわき市の一部	住宅地
		②	いわき市小浜町渚				200			
		②	いわき市小浜町東ノ作				900			
	勿来	①	いわき市小浜町台				700	T.P.+7.20m	いわき市の一部	住宅地
①		いわき市岩間町岩下～佐糠町荒屋	1,900							
③		いわき市鎌町須賀～九面坂下	4,800							
④		いわき市九面坂下	500							

表-1 計画事項

(3)整備計画

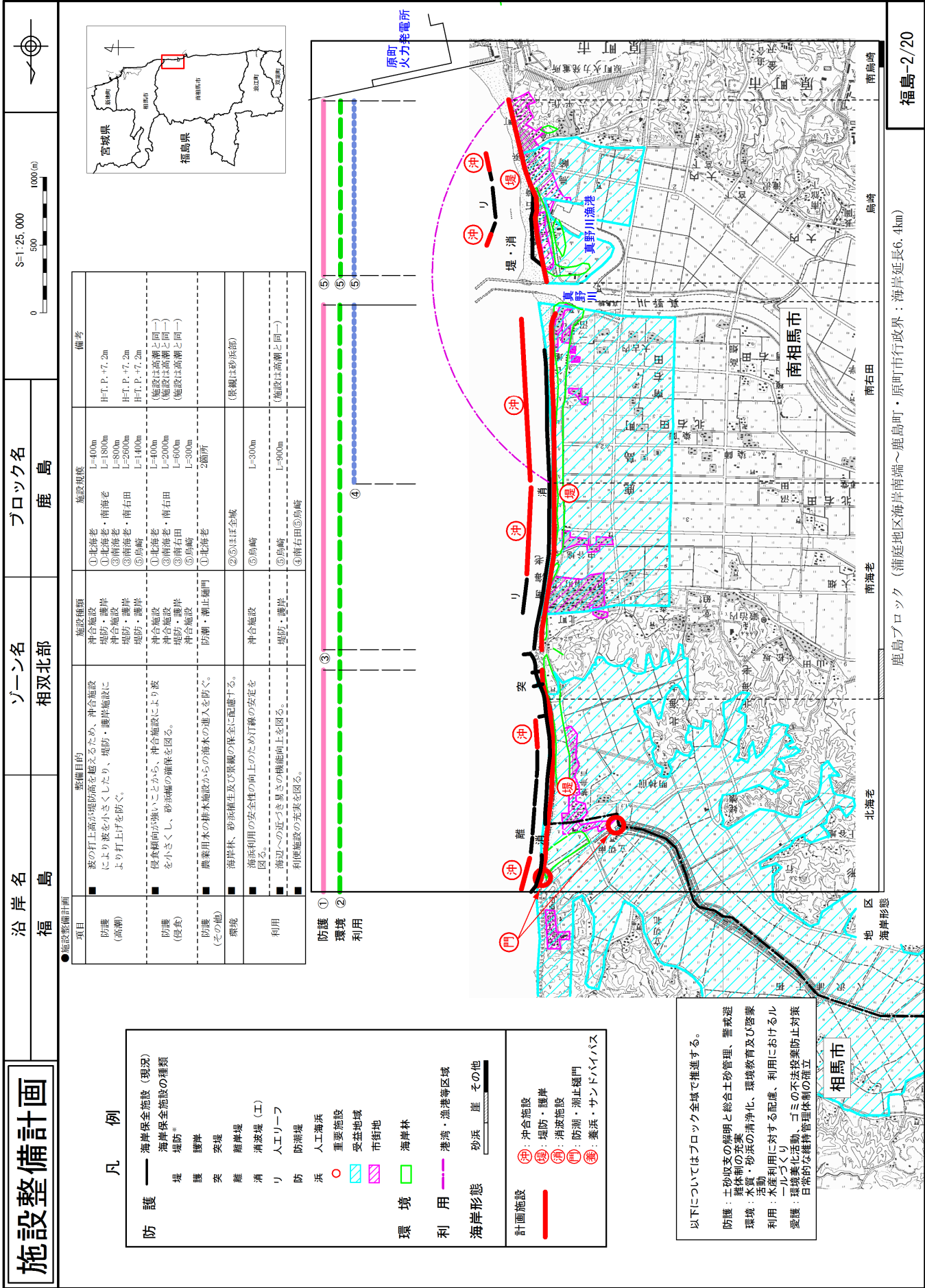
沿岸内の各ブロックにおいて防護すべき海岸の範囲と目標を施設整備計画図に示す。

また、地区海岸毎の維持修繕の記述一覧については、施設整備計画図の後に示す。



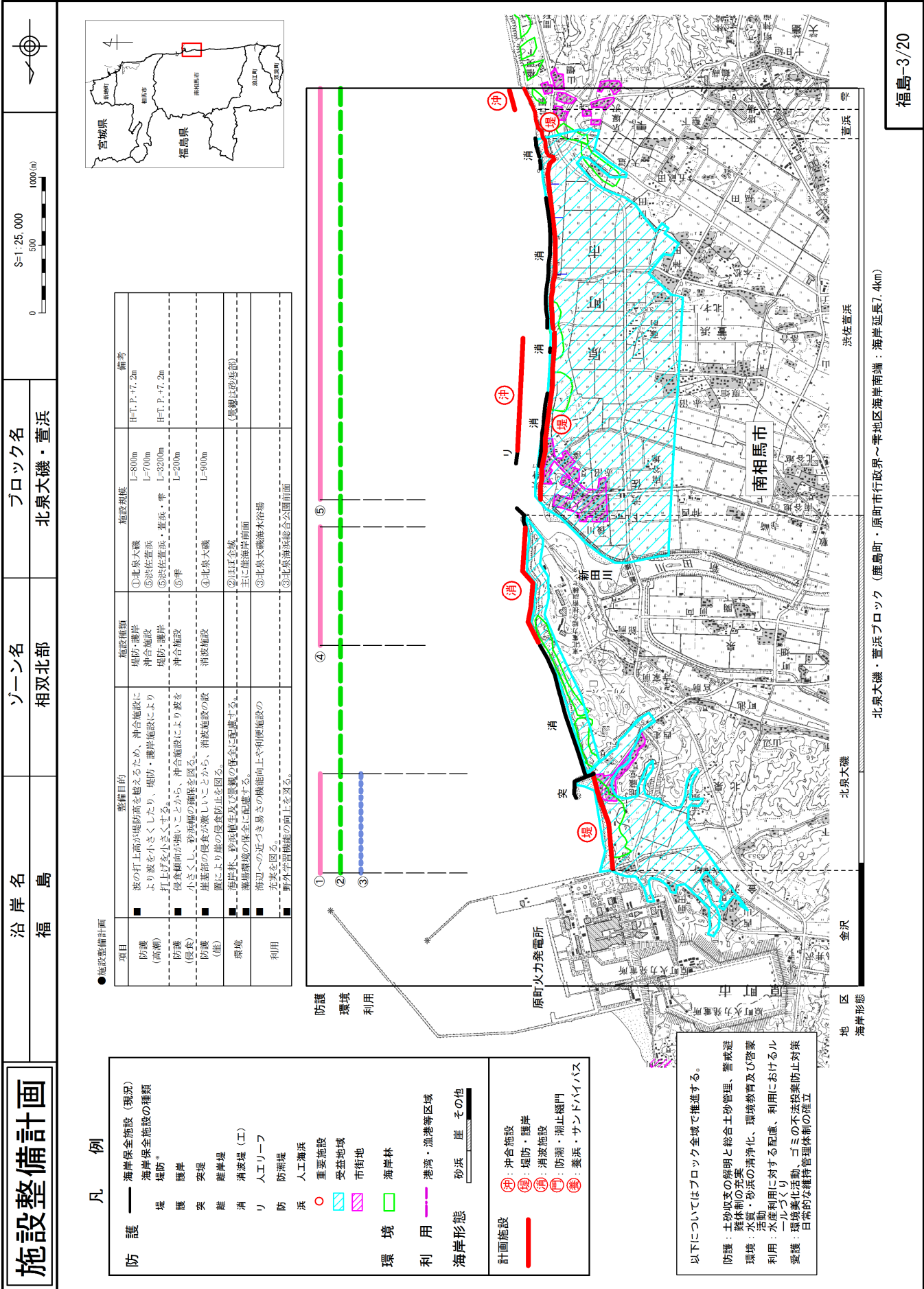
維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	相馬海岸	蒲庭	古磯部	相馬市磯部	砂浜 崖	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			古磯部	相馬市磯部	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			蒲庭	相馬市蒲庭	崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。



維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
			北海道	相馬市蒲庭 南相馬市鹿島区大字北海道	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 防潮・潮止・樋門	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・施設及び施設を操作するために必要な機械、器具等を良好な状態に保つよう、操作規則等に従い、定期的に点検・整備を行う。
			南相馬市鹿島区大字南相馬市	南相馬市鹿島区大字南相馬市	砂浜 崖	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
福島沿岸	鹿島海岸	鹿島	南右田	南相馬市鹿島区大字南右田	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			鳥崎	南相馬市鹿島区大字鳥崎	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・馬の訓練場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。
			南鳥崎	南相馬市鹿島区大字鳥崎	砂浜 その他	発電所	—



維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
			金沢	南相馬市原町区金沢	その他	発電所	—
			北泉大磯	南相馬市原町区北泉 南相馬市原町区泉	砂浜 崖 その他	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。
福島沿岸	原町海岸	北泉大磯・萱浜	浪佐萱浜	南相馬市原町区下浪佐 南相馬市原町区萱浜	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			萱浜	南相馬市原町区雫	砂浜	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			雫	南相馬市原町区雫	砂浜	堤防・護岸 沖合施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。


施設整備計画

名	島
岸	
沿	福

ゾーン名
相双北部

ブロック名
小浜・小高




$S=1:35,000$



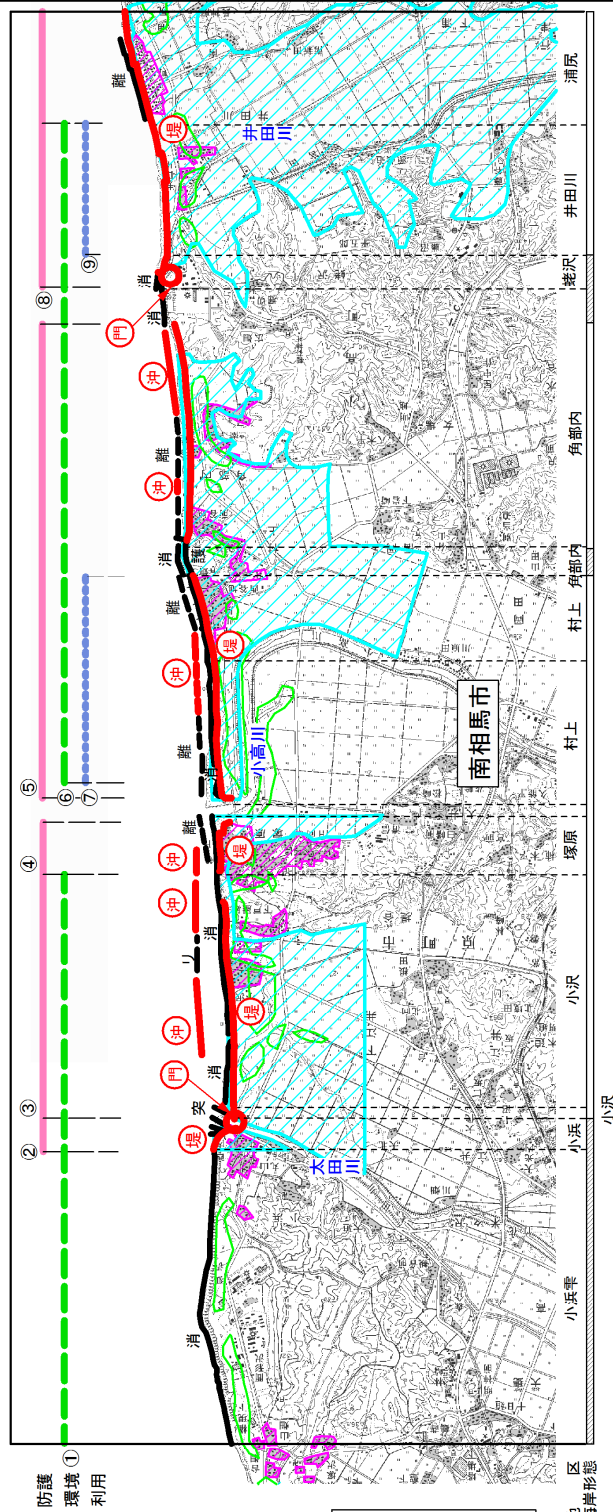
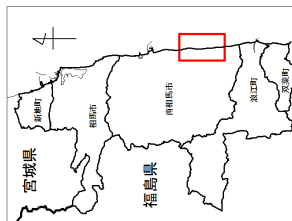
0 500 1000 (m)



凡例

防	護	海岸保全施設 (現況)
	堤	海岸保全施設の種類の堤防
	護	護岸
	突	突堤
	離	離岸堤
	消	消波堤 (工)
	り	人工リーフ
	防	防潮堤
	浜	人工海浜
	○	重要施設
		受益地域
		市街地
		海岸林
環	境	
利	用	港湾・漁港等区域
海	岸	砂浜
形	態	崖
他		その他

項目	整備目的	施設種類	施設規模	備考
■ 防護 (高潮)	波の打上高が堤防高を超えるため、沖合施設により波を小さくすると共に堤防・護岸施設により、打上げを防ぐ。	堤防・護岸 沖合施設 堤防・護岸 堤防・護岸 堤防・護岸 堤防・護岸 堤防・護岸	②小浜 L=100m ③小沢 L=1000m ④小沢 L=600m ⑤原 L=40m ⑥村上・角部内 L=3300m ⑦荒沢・井田川・浦尻 L=1900m	H=1.7, P=7.2m H=1.7, P=7.2m H=1.7, P=7.2m H=1.7, P=7.2m H=1.7, P=7.2m H=1.7, P=7.2m (施設は高潮と同一)
■ 防護 (浸食)	侵食傾向が強いところ、沖合施設により波を小さくし、砂浜域の確保を図る。	沖合施設 沖合施設 沖合施設	③小沢 L=1000m ④原 L=200m ⑤村上 L=40m	(施設は高潮と同一)
■ 防護 (その他)	農業用水の排水施設からの海水の進入を防ぐ。	防射側門 防射側門	⑥角部内 L=80m ⑦小沢 L=100m ⑧荒沢 L=100m	(施設は高潮と同一)
■ 環境	海岸林、砂浜植生及び景観の保全に配慮する。		①⑥ほぼ全域	(景観は砂浜部)
■ 利用	遊歩帯の保全に配慮する。		主に崖岸前面	
■ 利用	海辺への近づき易き機能向上を図る。	堤防・護岸 遊歩帯	⑦村上 L=1500m ⑧井田川 L=100m	(施設は高潮と同一) (施設は高潮と同一)
■ 利用	利用施設の充実を図る。		⑨七瀬水浴場	(施設は高潮と同一)
■ 利用	野外学習機能の向上を図る。		村上(村トキヤンアンプ場前)	(施設は高潮と同一)



小浜・小高ブロック(栗地)海浜地区～民地区:海岸延長10.4km

福島-4/20

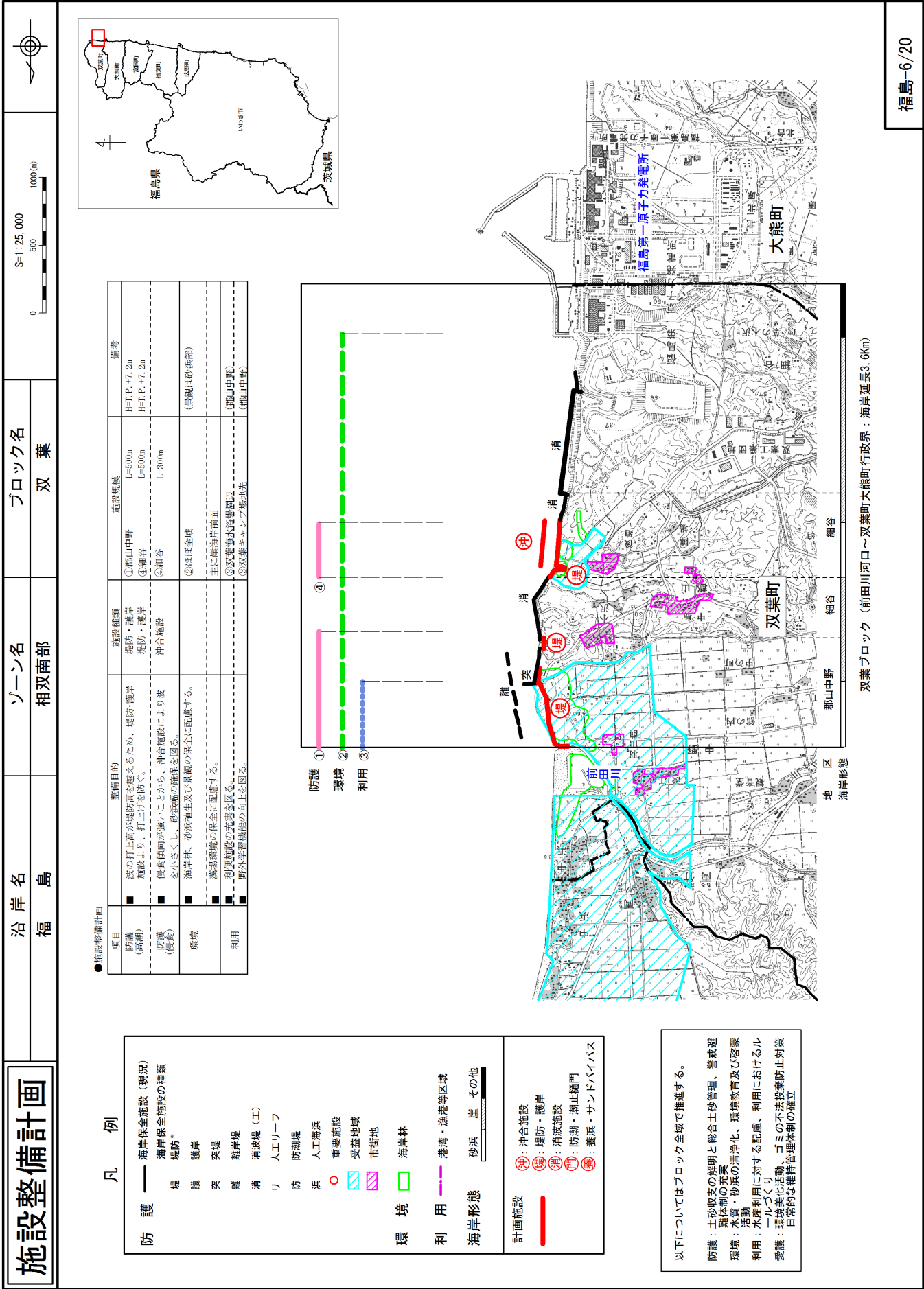
※堤防は、平成23年東日本大震災以降、一律堤防高の嵩上げを行うため、現況の表記を省略している。

維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針	
福島沿岸	原町海岸	小浜・小高	小浜雫	南相馬市原町区雫	崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			小浜	南相馬市原町区小浜	崖	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			小沢	南相馬市原町区小浜	砂浜	堤防・護岸 防潮樋門	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			小沢	南相馬市原町区小沢 南相馬市原町区堤谷	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			塚原	南相馬市小高区大字塚原	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			村上	南相馬市小高区大字村上	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			角部内	南相馬市小高区大字村上	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			角部内	南相馬市小高区大字角部内	砂浜 崖	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			蛸沢	南相馬市小高区大字角部内	崖	堤防・護岸 消波施設 防潮樋門	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
			井田川	南相馬市小高区大字角部内 南相馬市小高区大字浦尻	砂浜	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
	浦尻	南相馬市小高区大字浦尻	砂浜	堤防・護岸 沖合施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。			
	小高海岸	小高海岸	小高					

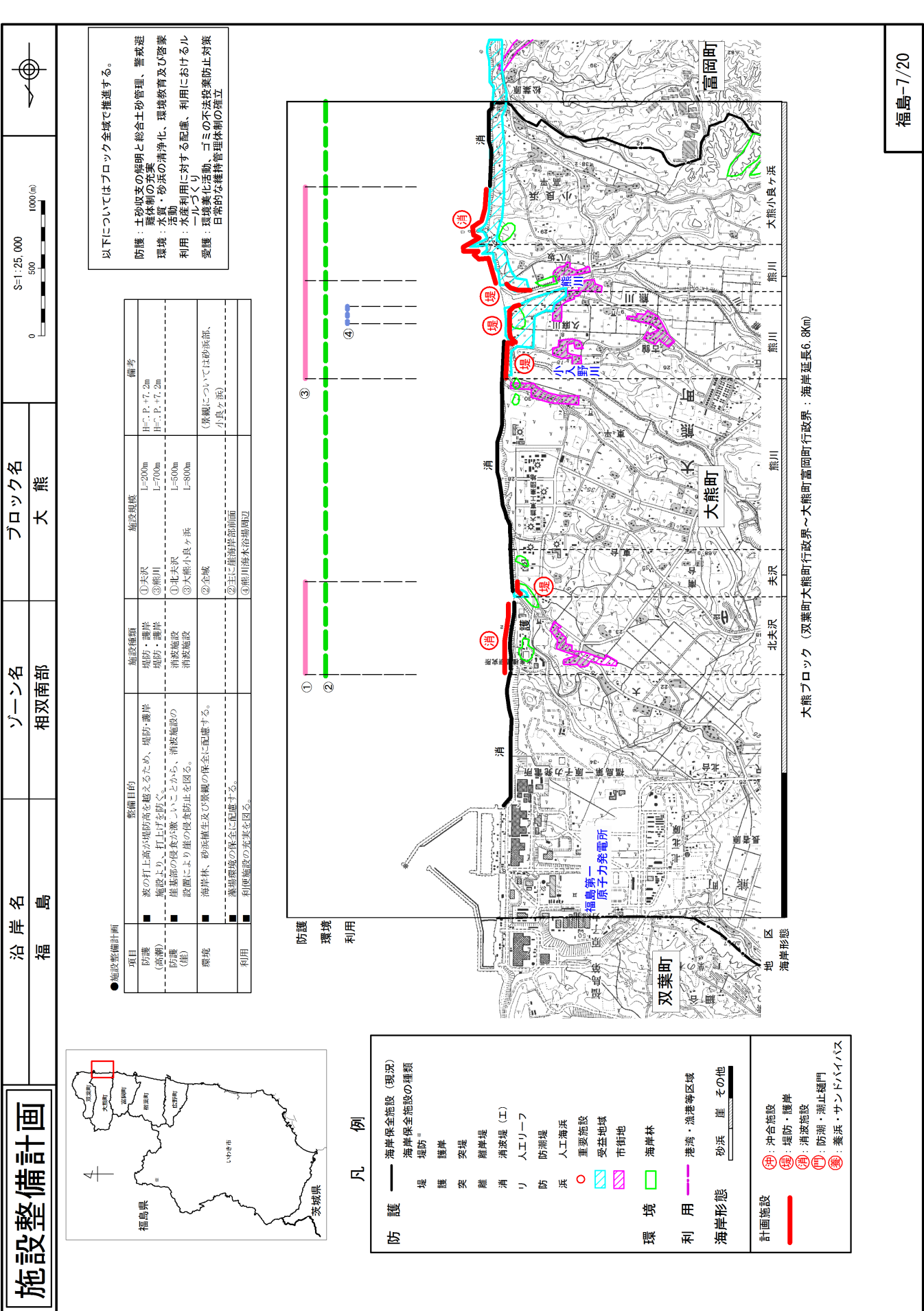
維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	浪江海岸	浪江	棚塩	南相馬市小高区大字浦尻 浪江町大字棚塩	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			棚塩	浪江町大字棚塩	砂浜 崖	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			請戸	浪江町大字請戸	砂浜 その他	堤防・護岸 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			請戸中浜	浪江町大字請戸 浪江町大字中浜	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			中浜	浪江町大字中浜	砂浜	堤防・護岸 防潮樋門	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・施設及び施設を操作するために必要な機械、器具等を良好な状態に保つよう、操作規則等に従い、定期的に点検・整備を行う。
			浪江中浜	浪江町大字中浜	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			双葉中浜	双葉町大字中浜	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。



維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	双葉海岸	双葉	郡山中野	双葉町大字中野 双葉町大字郡山	砂浜 崖	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。
			細谷	双葉町大字郡山	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			細谷	双葉町大字郡山	砂浜 崖	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			南細谷	双葉町大字細谷	崖 その他	発電所	—



維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	大熊海岸	大熊	北原	大熊町大字夫沢	崖 その他	発電所	－
			北夫沢	大熊町大字夫沢	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			夫沢	大熊町大字夫沢	砂浜 崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			熊川	大熊町大字夫沢 大熊町大字小入野	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			熊川	大熊町大字小入野 大熊町大字熊川	砂浜 崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			大熊小良ヶ浜	大熊町大字小良浜	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。

維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	富岡海岸	小良ヶ浜	富岡小良ヶ浜	富岡町大字小良ヶ浜	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・台風等による波浪の後はブロックの飛散や沈下等に留意する。
			小浜	富岡町大字小浜	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			下小浜	富岡町大字小浜	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。

施設整備計画

名	豐
岸	
沿	疆

相双南部

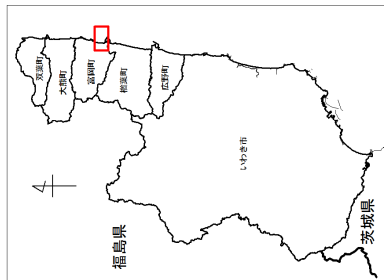
固 田
ブロック名



$S=1:25,000$



0 500 1000 (m)



凡例

- 防 護**

 - 海岸保全施設（現況）
 - 海岸保全施設の種類の堤
 - 離岸堤
 - ▲ 突堤
 - 離岸堤
 - 消波堤（工）
 - リ エリーフ
 - 防 潮堤
 - 浜 人工海浜
 - 重要施設
 - ▨ 受益地域
 - ▩ 市街地

環 境

 - 海岸林

利 用

 - - 港湾、漁港等区域

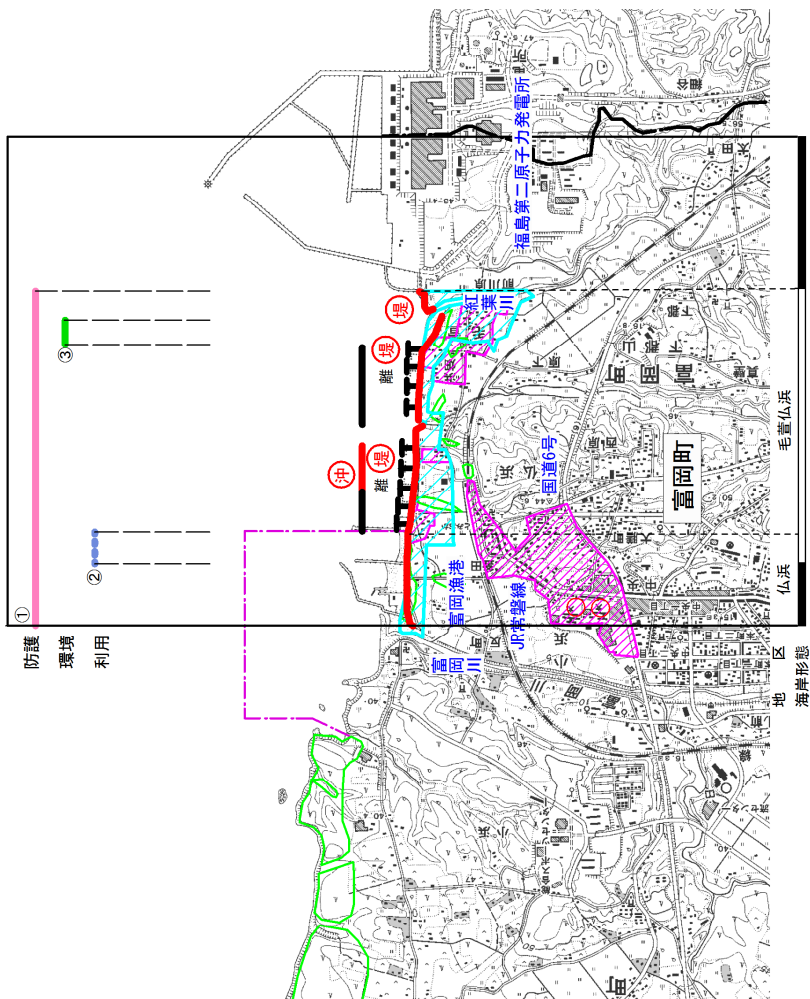
海岸形態

 - 砂浜 崖 その他

- 計画施設
- ① 沖合施設
② 堤防・護岸
③ 消波施設
④ 防潮・潮止閘門
⑤ 養浜・サンDBayパス

以下についてはブロック全域で推進する。

防護：土砂収支の解明と総合土砂管理、警戒避難体制の充実
環境：水質・砂浜の清浄化、環境教育及び啓蒙活動
利用：水産利用に対する配慮、利用におけるルールづくり
愛護：環境美化活動、ゴミの不法投棄防止対策
日常的な維持管理体制の確立



富田ブロック(富田川河口～富岡町榑葉町行政界：海岸延長2.8km)

福島-9/20

※堤防は、平成23年東日本大震災以降、一律堤防高の嵩上げを行うため、現況の表記を省略している。

維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	富岡海岸	富岡	仏浜	富岡町大字仏浜	砂浜 その他	堤防・護岸 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。
			毛萱仏浜	富岡町大字仏浜	砂浜	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			前川原	富岡町大字毛萱	その他	沖合施設 発電所	―

施設整備計画

名	嶺
岸	
沿	福

相双南部

ブロッック名	葉 檀
--------	--------

$$S=1:30,000$$


凡例

防護

- 海岸保全施設 (現況)
- 海岸保全施設の埋没
- 堤防
- 埋堤岸
- 埋堤突
- 埋堤
- 離岸堤
- 消波堤 (工)
- 人工エリフ
- 防潮堤
- 人工掘浜
- 重要施設
- 受益地域
- 市街地
- 海岸林

環境

- 港湾、漁港等区域
- 砂浜
- 崖

利用

- 沖合施設
- 護岸施設
- 防潮・潮止堰門
- 養魚・サントバリス

海岸形態

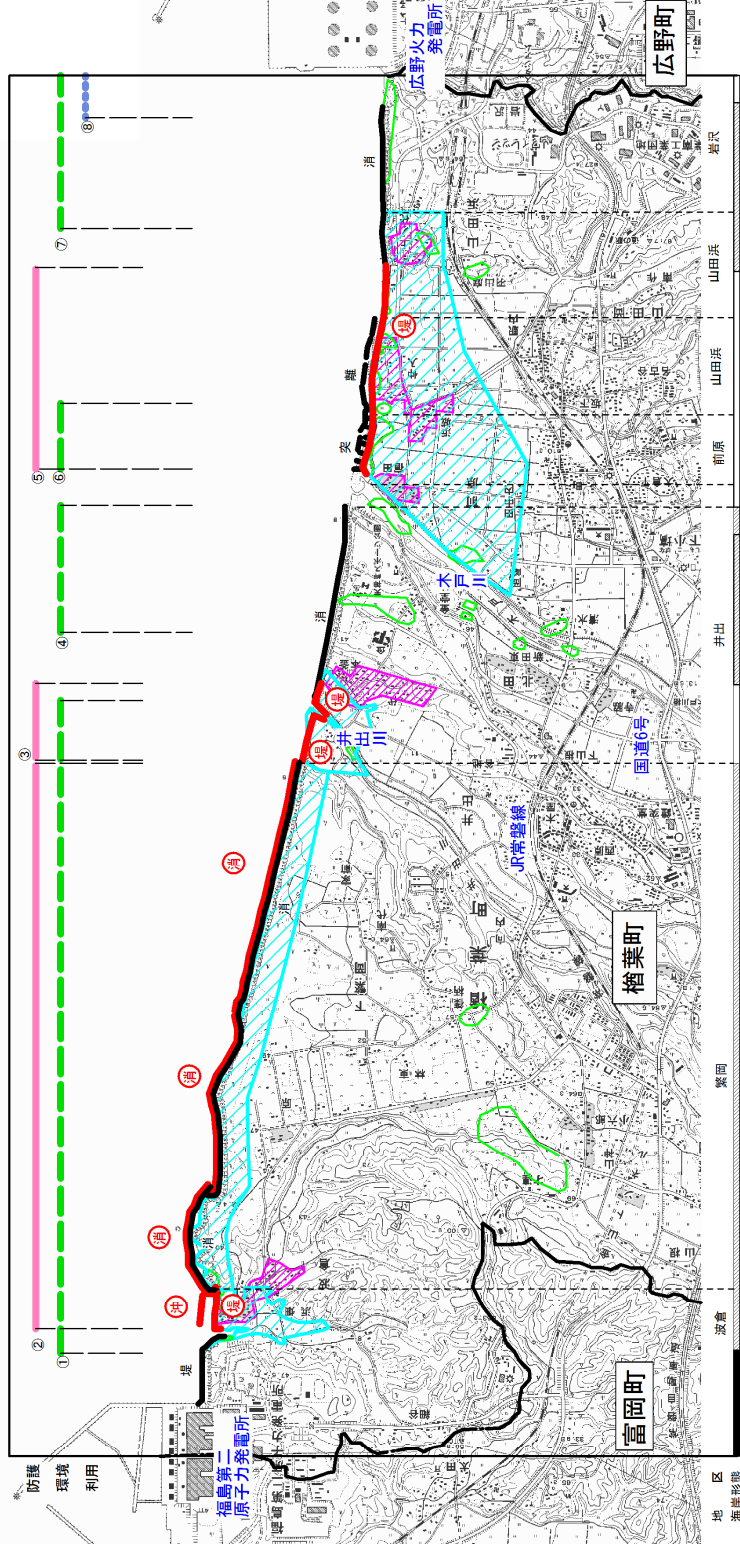
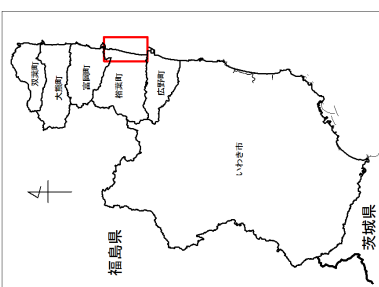
計画施設

以下についてはブロック全域で推進する。

防護：土砂収支の解明と総合土砂管理、警戒避難体制の充実
環境：水質・砂浜の清浄化、環境教育及び啓蒙活動
利用：水産利用に対する配慮、利用におけるルールづくり
意識：環境美化活動、ゴミの不法投棄防止対策、日常的な維持管理体制の確立

●施設整備計画

項目	整備目的	施設概要	増設内容	備考
■ 防衛 (津波)	浪の打上がりを妨げるため、場所・規模により、打上げを防ぐ。	堤防・護岸 ①安倉 ②茨田 ③山田 ④前原・山田浜 ⑤橋野・藤里	L=40m L=40m L=40m L=200m L=340m	林T.P.48.7m 林T.P.48.7m 林T.P.48.7m 林T.P.48.7m 林T.P.48.7m
■ 防衛 (竜巻等)	低気圧に向強いことから、沖合道路により波浪のさく／＼を軽減する。	沖合道路 沖合道路		
■ 防衛 (船舶)	船隻の横断が激しいことから、消波施設の設置により船舶の衝突防止を図る。	消波施設		
■ 環境 調整	排水路は、砂が堆積しやすい状態に陥つており、砂の堆積による排水不良の原因となる。砂の堆積を抑制するためには、排水口の清掃が必要である。	排水口清掃機 排水口清掃機		
■ 利用	利便施設の充実を図る。	トイレ トイレ		



檜葉ブロッコ (富岡町檜葉町行政界～檜葉町広野町行政界：海岸延長9.4km)

福島-10/20

※堤防は、平成23年東日本大震災以降、一律堤防高の嵩上げを行うため、現況の表記を省略している。

維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
			小浜作	檜葉町大字波倉	その他	発電所	—
			波倉	檜葉町大字波倉	崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			繁岡	檜葉町大字波倉 檜葉町大字井出	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			井出	檜葉町大字井出 檜葉町大字北田	砂浜 崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			前原	檜葉町大字前原	砂浜	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			山田浜	檜葉町大字山田浜	砂浜	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			山田浜	檜葉町大字山田浜	砂浜 崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
福島沿岸	檜葉海岸	檜葉	岩沢	檜葉町大字山田浜	砂浜 崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。

維持修繕の記述一覧

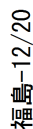
沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	広野海岸	浅見	下北迫東原	広野町大字下北迫	その他	発電所	—
			下北迫北釜	広野町大字下北迫	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			浅見川	広野町大字下北迫 広野町大字下浅見川	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 ゲート	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・日常巡視に際してはゲートの稼働及び管渠の埋塞に留意する。
			下浅見川	広野町大字下浅見川	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			高萩	広野町大字折木	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			折木	広野町大字折木	砂浜 崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。

沿 岸 名	ゾーン名	ブロック名
福 島	相双南部	夕筋・末続



項目	整備目的	施設種類	施設規模	備考
■ 防潮 防護 (津波) (津波)	波の打上高が堤防高を超えるため、堤防、護岸施設により打上高を防ぐ。	堤防・護岸 堤防・護岸 堤防・護岸	L=500m L=200m L=100m	H=P.+8.7m H=P.+8.7m H=P.+7.2m
■ 防潮 防護 (津波)	崖基部の侵食が激しいことから、消波施設の設置により崖の侵食防止を図る。	消波施設	②未統(箱) ④金ヶ沢 ⑤久之浜 ⑥未統(深谷)	L=1300m
■ 防潮 防護 (津波)	海岸林の保全に配慮する。 海岸防線の保全に配慮する。		①ほぼ全域の海岸防線。 主に崖基部前面	

土砂収支の解明と総合土砂管理、警戒避
難体制の充実
環境：水質・砂浜の清浄化、環境教育及び啓蒙
活動
利用：水産利用に対する配慮、利用におけるル
ールづくり
環境美化活動、ゴミの不法投棄防止対策
愛護：日常的な維持管理体制の確立



54

維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	広野海岸	タ筋・未続	タ筋	広野町大字タ筋	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
	未続		いわき市久之浜町未続	砂浜 崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
	金ヶ沢		いわき市久之浜町金ヶ沢	砂浜 崖	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
	金ヶ沢		いわき市久之浜町久之浜	崖 その他	消波施設 港湾	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	
	久之浜 岸		いわき市久之浜町久之浜	その他	堤防・護岸 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	

施設整備計画

名	島
岸	
沿	福

いわき
ゾーン

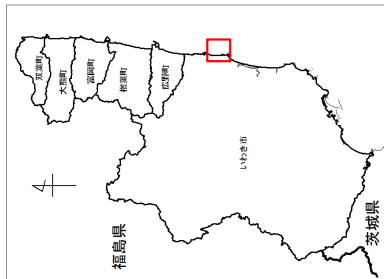
久之浜

$S=1:25,000$



●施設整備計画

項目	整備目的	施設種類	施設規模	備考
■ 防護 防波 (高潮)	波の打上高が堤高を超えるため、沖合施設により波を小さくしたり、堤防・護岸施設により打上げを防ぎ、水路からの海水の進入を防ぐ。	堤防・護岸 防船舶・潮止扉門 堤防・護岸	①久之浜・田之淵 L=2700m 2箇所 ②田之淵 L=1400m ③志津・四倉	計T. P. +7.2m 計T. P. +7.2m
■ 環境	海岸林、砂浜植生及び景観の保全に配慮する。		②全域	(砂浜部に砂浜植生・景観、崖部は海岸林)
■ 利用	海辺環境の保全に配慮する。		②久之浜 L=100m ③久之浜・田之淵 L=800m	(施設は高潮と同一) (施設は高潮と同一)
■ 利用	海辺への近づき易さの機能向上、利用施設の充実を図る。 野外交渉を図る。 野外学習機能の向上を図る。	堤防・護岸 堤防・護岸	①久之浜・田之淵 いわき海浜自然の美術館	



凡例

防 護 — 海岸保全施設（現況）

海軍保全身設の種類

堤防※

世
機
機

突堤突

離岸堤

洞波堤(工)

防 防潮堤

滨海 人工海滨

○ 重要施設

☐ 域外直取

市街地

[illegible]

况

利用漁港・灣

海岸砂浜の崖

設計面

堤防

消波施

防潮

第 1 页

以下についてはブロック全域で推進する。

防護：土砂収支の解明と総合土砂管理、

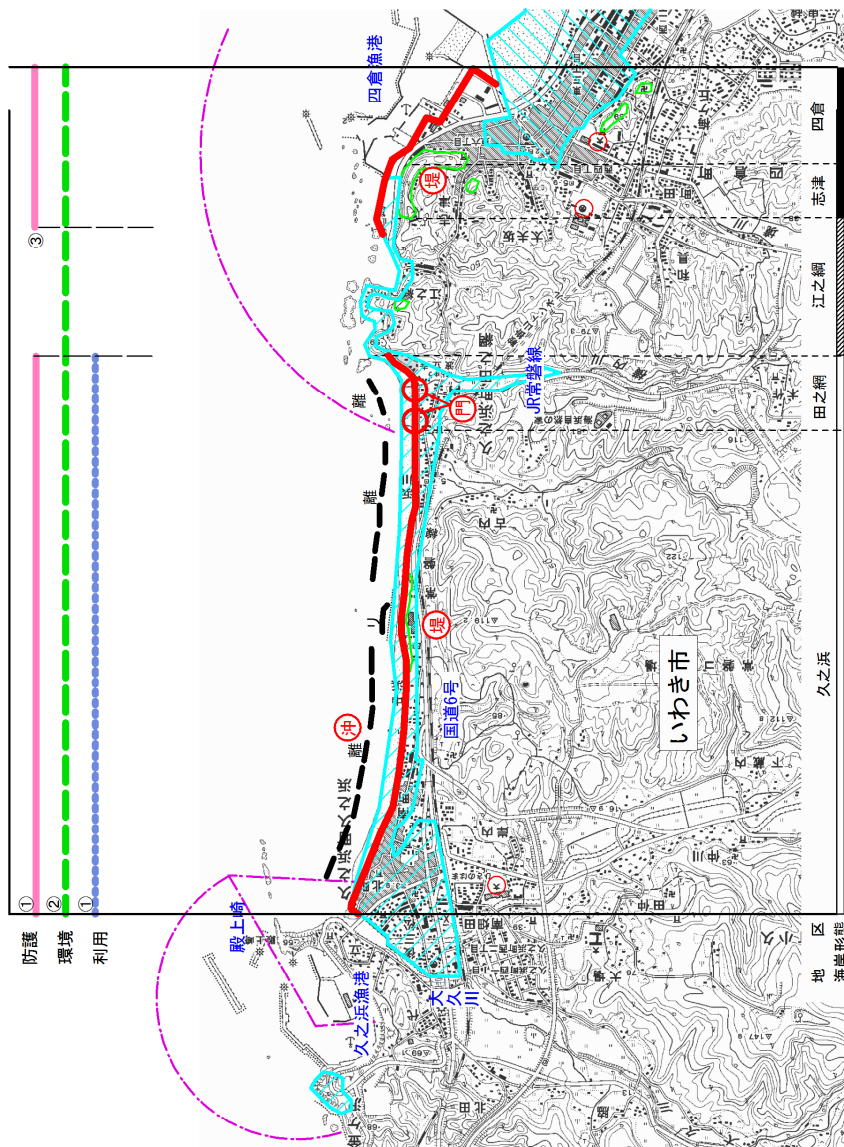
難体制の充実

環境・小見・砂浜の月夜、環境月夜、環境活動

利用：水産利用に対する配慮、利用におけるル

愛護：環境美化活動、ゴミの不法投棄防止対策

日常的な維持管理体制の確立



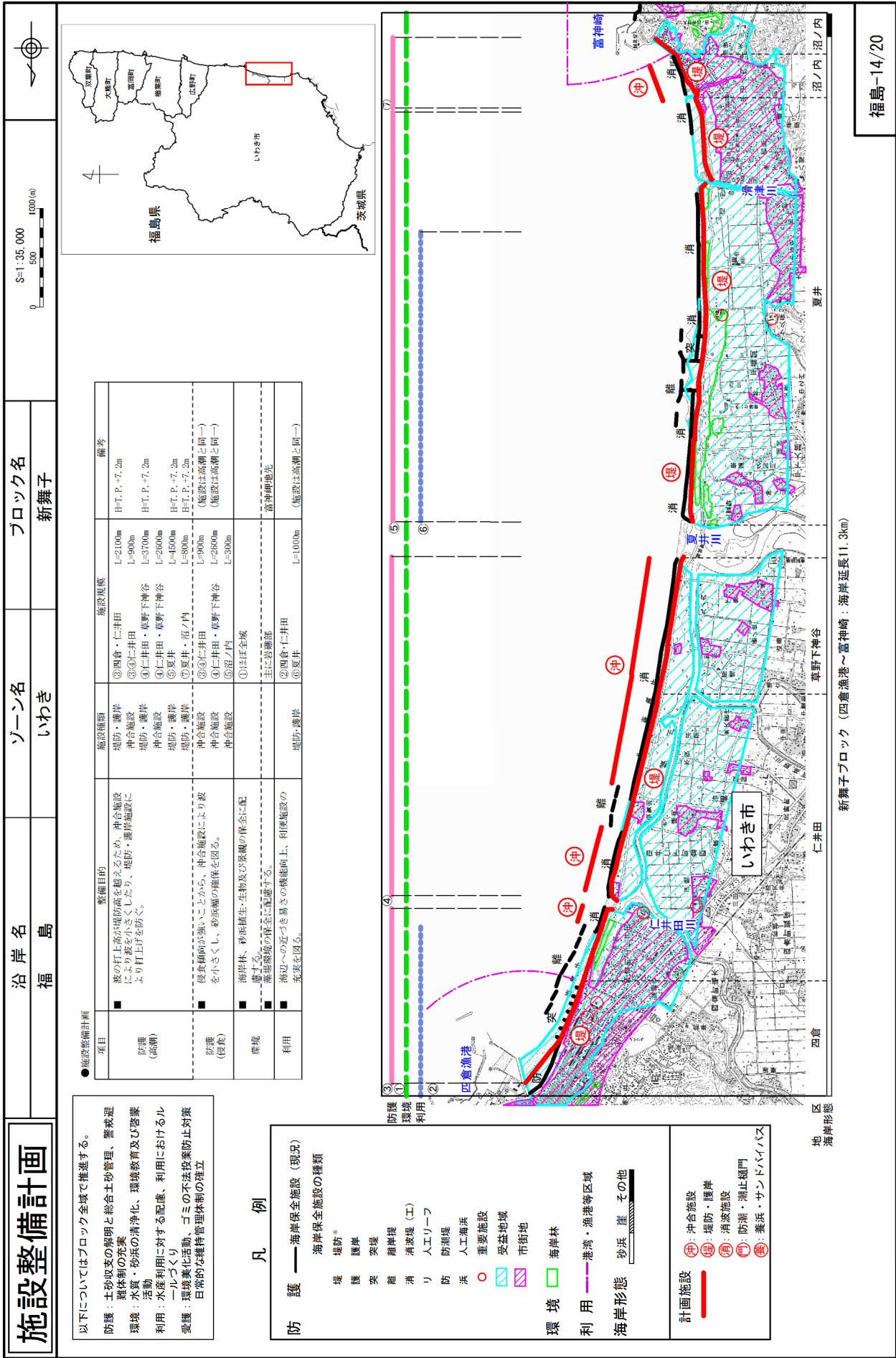
久之浜ブロック (殿上崎～四倉漁港：海岸延長7.2km)

福島-13/20

※堤防は、平成23年東日本大震災以降、一律堤防高の嵩上げを行うため、現況の表記を省略している。

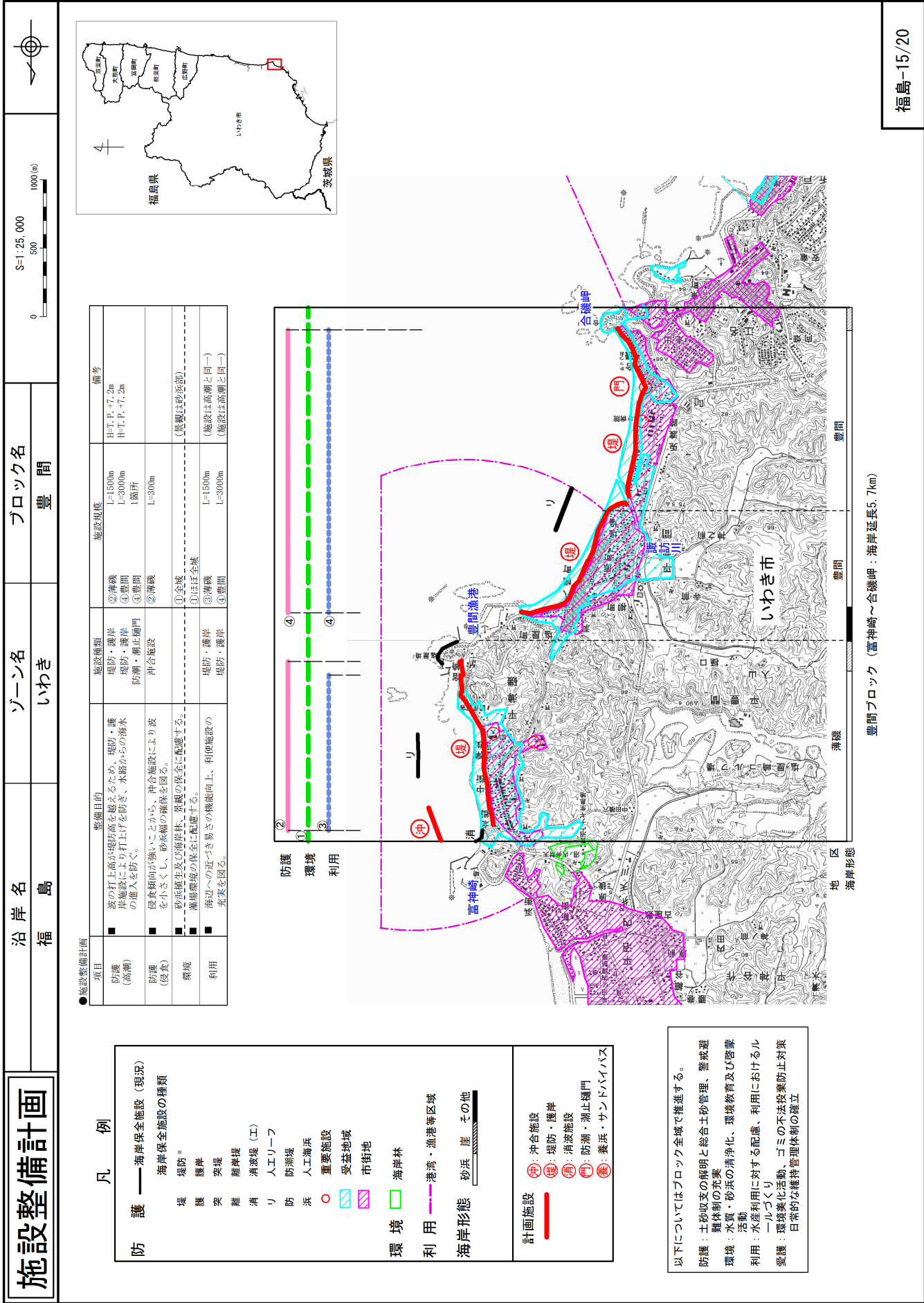
維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	久之浜海岸	久之浜 四倉海岸	久之浜	いわき市久之浜町久之浜 いわき市久之浜町田之網	砂浜	堤防・護岸 沖合施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・大久川河口が隣接しており河口閉塞が懸念されるため、日常巡視等において河口状況に留意する。
			田之網	いわき市久之浜町田之網	砂浜	防潮・潮止・樋門	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			江之網	いわき市久之浜町江之網	崖	消波施設	・施設を良好な状態に保つよう、定期的に点検・整備を行う。
			志津	いわき市四倉町	その他	堤防・護岸 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			四倉B	いわき市四倉町	その他	堤防・護岸 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。



維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	四倉海岸	新舞子	四倉	いわき市四倉町	砂浜	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			仁井田	いわき市四倉町	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。
	草野下神谷		いわき市平下神谷	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。 ・夏井川河口が隣接しており河口閉塞が懸念されるため、日常巡視等において河口状況に留意する。また、河口部はコアジサシの営巣地であり、保全状況に留意する。	
	夏井		いわき市平下大越 いわき市平藤間	砂浜	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。 ・滑津川河口が隣接しており河口閉塞が懸念されるため、日常巡視等において河口状況に留意する。	
	沼ノ内		いわき市平沼ノ内	砂浜	堤防・護岸 沖合施設 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・井天川河口が隣接しており河口閉塞が懸念されるため、日常巡視等において河口状況に留意する。	
	沼ノ内		いわき市平沼ノ内	砂浜 その他	堤防・護岸 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。	



維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	平海岸	豊間	薄磯	いわき市平薄磯	砂浜	堤防・護岸 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。
			豊間B	いわき市平豊間	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			豊間	いわき市平豊間	砂浜 その他	堤防・護岸 沖合施設 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。
			豊間	いわき市平豊間	砂浜 その他	堤防・護岸・樋門	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。 ・施設を良好な状態に保つよう、定期的に点検・整備を行う。 ・日常巡視に際してはゲートの稼働及び管渠の埋塞に留意する。

名	豐
岸	
沿	福

ゾーン名	いわき
------	-----

ブロック名

 $S=1:25,000$ 

●施設整備計画

項目	整備目的	施設種類	施設規模	備考
■ 防衛 防護 (高潮)	波の打上高が堤防高を超えるため、堤防施設により打上げを抑制。	堤防・護岸 堤防・護岸 堤防・護岸	①走出A・走出B 走出C ③江ノ浦・岸浦 ④中之浦・木崎 I=1000m I=700m I=1200m	H=T.P.+7.2m H=T.P.+7.2m H=T.P.+7.2m
■ 環境	海岸林の保全に配慮する。 養殖環境の保全に配慮する。		②遊歩を除く全域 ③港域を除く全域	

以下についてはブロック全域で推進する。

防護：土砂収支の解明と総合土砂管理、警戒避難体制の充実
環境：水質・砂浜の清浄化、環境教育及び啓蒙活動
利用：水産利用に対する配慮、利用におけるルールづくり
愛護：環境美化活動、ゴミの不法投棄防止対策
日常的な維持管理体制の確立

凡例

防 護 —— 海岸保全施設 (現況)

海岸保全施設の種類

堤防・護岸

突堤

離岸堤

消波堤 (工)

人工リーフ

防波堤

人工海浜

重要施設

受益地域

市街地

海岸林

利用 —— 港湾・漁港等区域

海岸形態

砂浜 崖 その他

計画施設

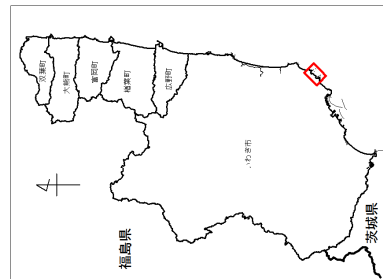
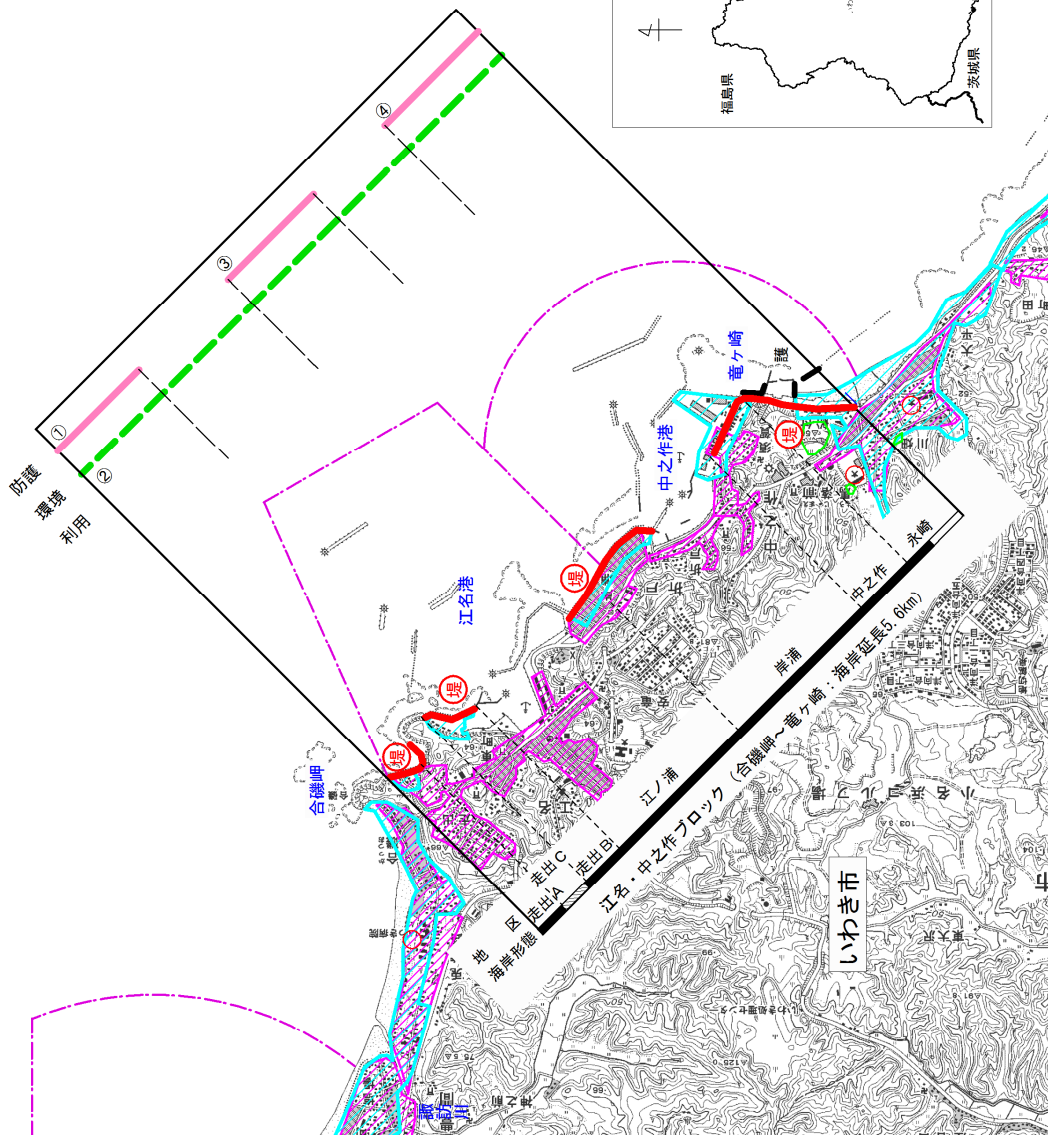
沖合施設

堤防・護岸

消波堤

防波・潮止閘門

養殖・兼浜・サンパドバイパス

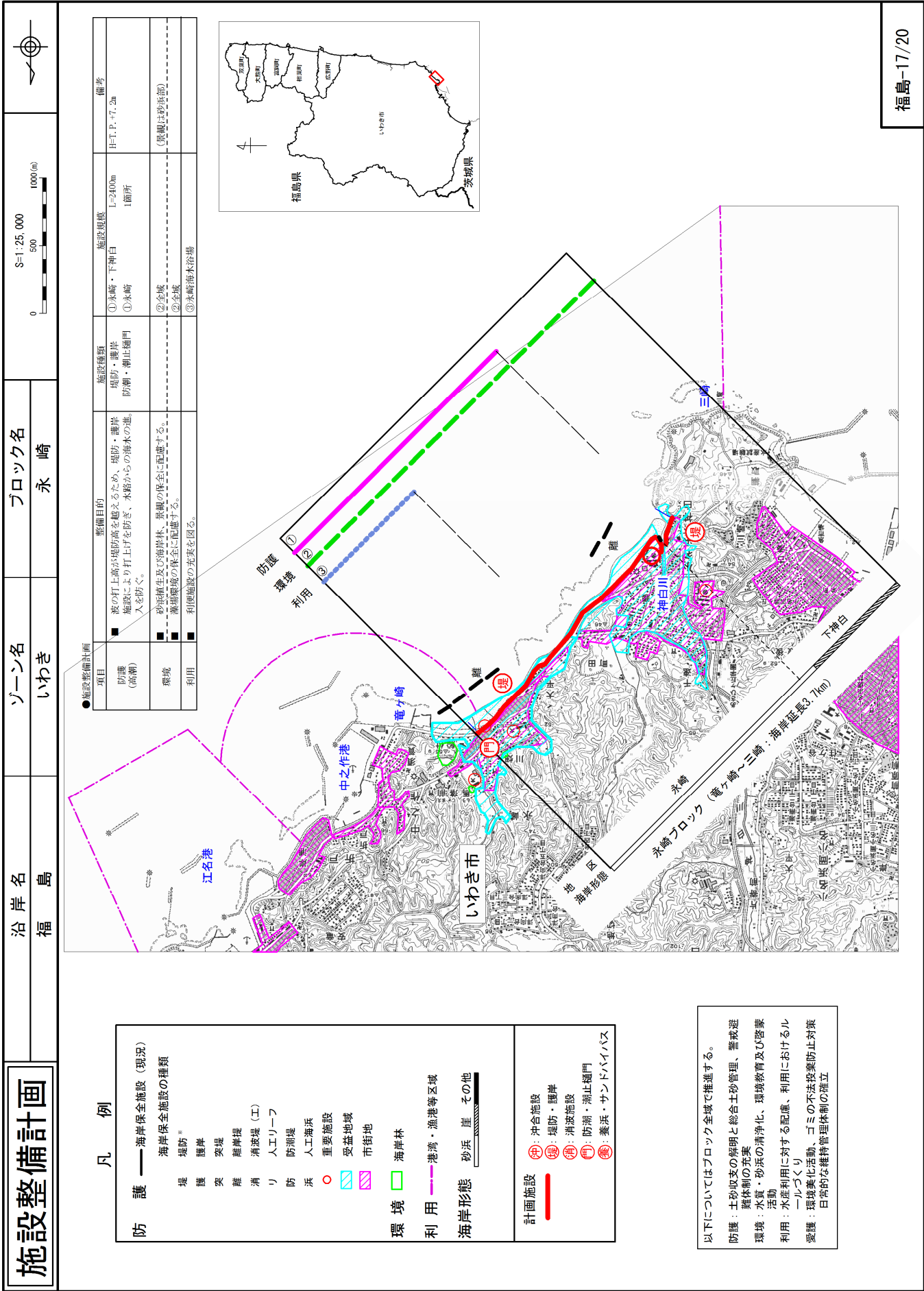


福島-16/20

※堤防は、平成23年東日本大震災以降、一律堤防高の嵩上げを行うため、現況の表記を省略している。

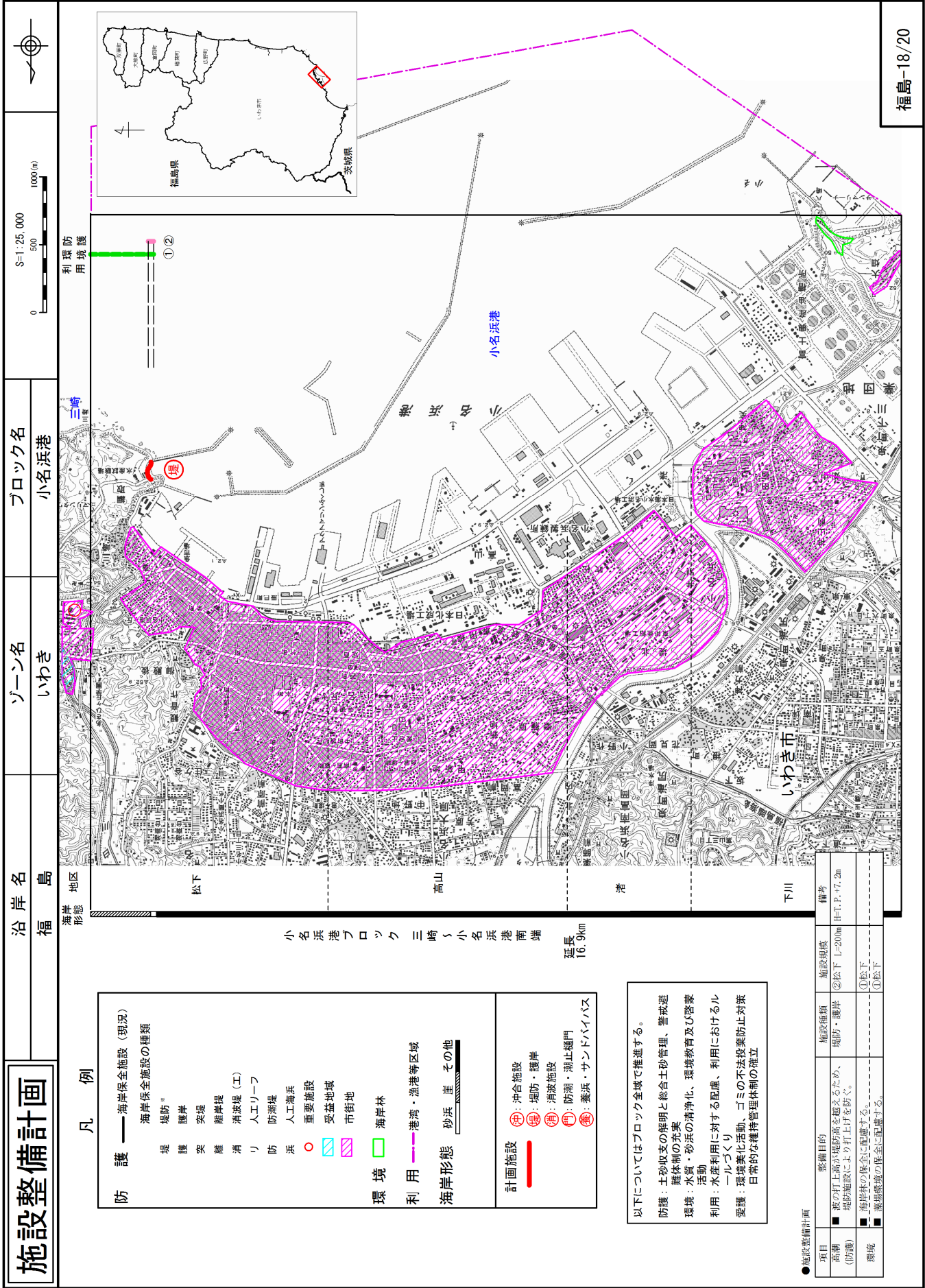
維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	磐城海岸	江名・中之作	走出A	いわき市江名	その他	堤防	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			走出C	いわき市江名	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			走出B	いわき市江名	その他	港湾	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			江ノ浦	いわき市江名	その他	堤防	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			岸浦	いわき市中之作	その他	堤防	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			中ノ作	いわき市中之作	その他	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			永崎	いわき市永崎	砂浜 その他	堤防・護岸	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。



維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	磐城海岸	永崎	永崎	いわき市永崎	砂浜	堤防・護岸 ・樋門	<ul style="list-style-type: none"> ・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。 ・施設を良好な状態に保つよう、定期的に点検・整備を行う。 ・日常巡視に際してはゲートの稼働及び管渠の埋塞に留意する。
			下神白	いわき市小名浜下神白	砂浜 崖	堤防・護岸	<ul style="list-style-type: none"> ・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。

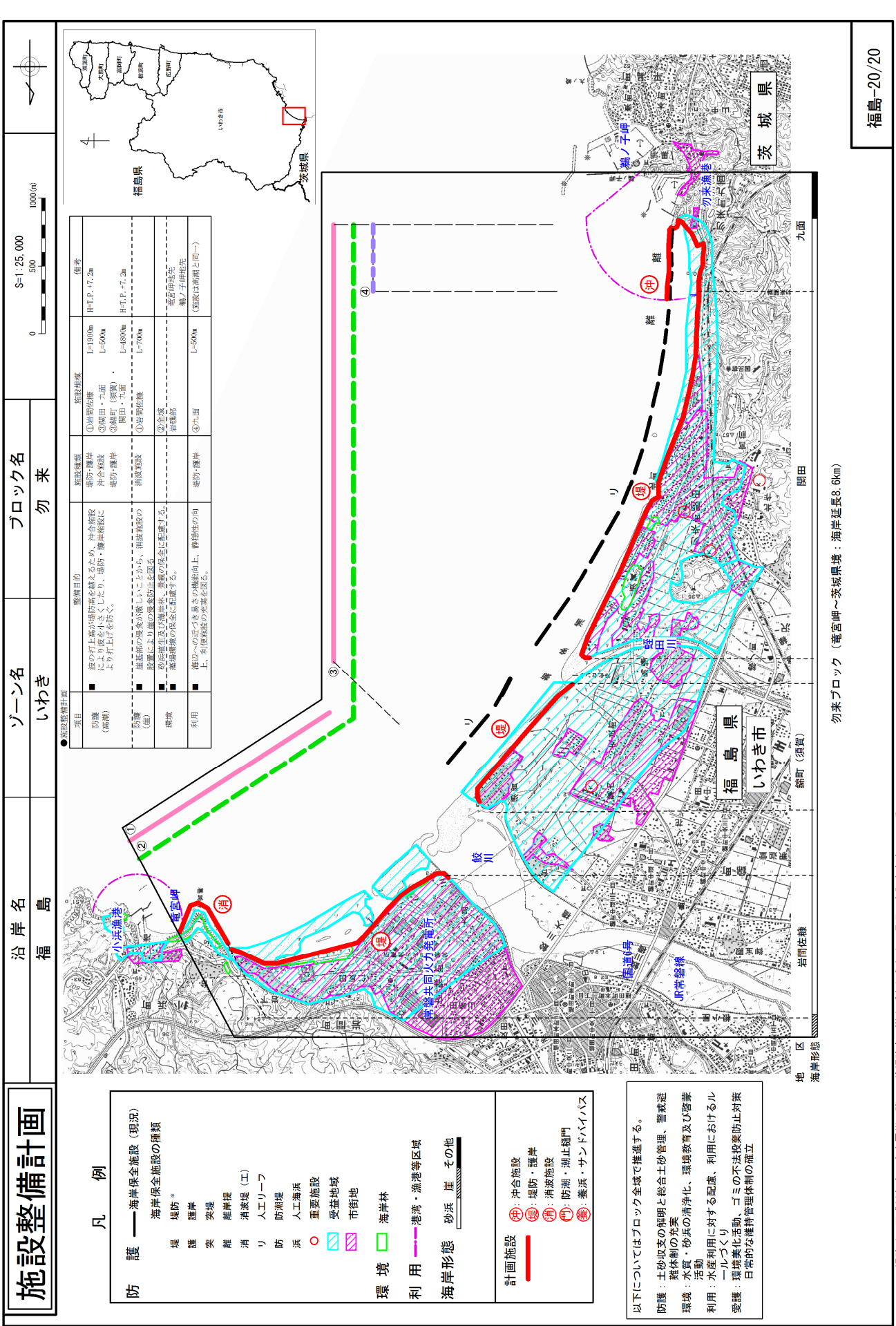


維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	磐城海岸	小名浜港	松下	いわき市小名浜下神白	砂浜 崖 その他	護岸 港湾	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			高山	いわき市小名浜	その他	港湾	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			渚	いわき市小名浜	その他	護岸 港湾	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			下川	いわき市泉町	その他	護岸 港湾	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。

維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	磐城海岸	剣浜・小浜	剣浜	いわき市小浜町	崖	消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			小浜	いわき市小浜町	砂浜 崖 その他	護岸・堤防 消波施設 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。



維持修繕の記述一覧

沿岸	海岸	ブロック	地区	住所	海岸形態	施設種類等	維持修繕の方針
福島沿岸	勿来海岸	勿来	岩間佐糠	いわき市岩間町	砂浜	堤防・護岸 消波施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			錦町須賀	いわき市錦	砂浜	堤防・護岸 沖合施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。
			関田	いわき市錦 いわき市勿来町	砂浜	堤防・護岸 沖合施設	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。 ・海水浴場として利用されているため、日常巡視に際しては砂浜の汀線変化状況を監視すると共に、利用者の安全に留意する。
			九面	いわき市勿来町九面	砂浜 その他	堤防・護岸 沖合施設 漁港	・日常巡視、台風や地震等の発生後の発生後の臨時点検及び5年に1回程度の定期点検を実施し、適切な維持・修繕を行う。

第3 その他

1 情報発信と地域住民の参画

今後、施策を実施し、継続的に展開していくためには、常日頃からの地域住民や利用者などの参画が不可欠である。ともに考え、ともに行動するという観点で、より一層住民・利用者などの参加が図られるよう働きかけるものとし、積極的な情報発信を行っていく。

また、事業実施段階において、海岸保全基本計画が実効的かつ効率的に執行できるよう、適宜地域住民や利用者などの参画を得ることのできる仕組みづくりの推進を図っていくものとし、以下のような具体的取り組みを実践していく。

- 海岸の各種情報を広報、冊子、インターネット等で発信し、情報を共有化することによって地域住民・利用者などの参画ができる仕組みづくりを推進する。
- 事業実施の際には、事前説明会等の地域住民・利用者などとの話し合いの場を作り、住民合意の形成に努める。

2 計画の見直し

下記のような場合には、本計画の見直しを行うものとする。

- 地形変動や大規模な災害に伴い新たな施設の設置が必要とされる場合。
- 経済状況の変化等、社会的状況に著しい変化が生じた場合。

引用文献

本文中に引用した資料については、それぞれ引用した頁に脚注として示したが、ここに全引用文献を示した。

- 福島県（1987）： 昭和 62 年福島県海岸特性調査
- 福島県（1994）： ふくしまの海岸
- 福島県（1994）： 福島県海域環境マップ
- 福島県（1994）： ふくしま沿岸域総合利用構想調査
- 福島県（1995）： ふくしま沿岸域保全利用指針
- 福島県（1995）： 常磐（福島）沿岸海岸保全施設の整備基本計画
- 福島県（1995）： 第 6 次海岸事業五箇年計画
- 福島県（1997）： 平成 9 年度福島沿岸海岸侵食調査
- 福島県（2000）： 福島県海岸保全区域図
- 福島県（2002、2003）： レッドデータブックふくしま I II
- 福島県（2001）： 福島県勢要覧
- 福島県（2002）： 福島県自然環境情報
- 福島県野鳥の会（1979）： ふるさとの鳥をたずねる
- 福島県植物誌編纂委員会（1987）： 福島県植物誌
- 環境庁（1981）： 第 2 回自然環境保全基礎調査
- 環境庁（1989）： 第 3 回自然環境保全基礎調査
- 海上保安庁（1986）： 本州南・東岸水路誌
- 気象庁（2001）： アメダス気象データ
- 鈴木敬治（1992）： 福島県の地質図、福島県地学のガイド
- 田中茂信他（1993）： 地形図の比較による全国の海岸線変化、海講, vol.40, pp.416-420
- 日本の渚中央委員会（1996）： 日本の渚 100 選